

目次

I. プロジェクト概要

ESD コーディネーター・プロジェクトの概要	4
------------------------------	---

II. 3つのワーキング・グループからの報告

1) ビジョン&カリキュラム枠組検討 WG 報告	8
2) 関東コーディネーター学びあい WG 報告	12
3) OJT 型研修ブラッシュアップ WG 報告	16
岡山 ESD コーディネーター育成セミナー	18
稲城 ESD コーディネーター育成セミナー	20
北九州 ESD コーディネーター育成講座「ESD 未来創造セミナー」	22

III. 『未来へつなぐ』より コーディネーター研修の現場から

千葉県コミュニティプランニングコーディネーター育成講座	26
岡山市における公民館職員向け ESD コーディネーター研修	28
北九州市 ESD コーディネーター育成講座「ESD 未来創造セミナー」	30

IV. 参考資料

環境省「ESD コーディネーター育成のあり方検討会」とりまとめ	34
[B-1] モデルプログラム：OJT 型（各自の実践現場での OJT）	46
[B-2] モデルプログラム：OJT 型（研修現場での OJT）	51
地球環境基金環境保全戦略講座（ESD 分野）： 持続可能な地域づくり・ESD 実践者のためのコーディネート実践トレーニング	56
（社）中越防災安全推進機構復興デザインセンター 地域復興支援員研修会： コーディネートゲーム	64
JVCA ボランティアコーディネーター研究集会 2012 分科会： 地域の未来の担い手づくりへ、出番と居場所をどうコーディネートするか	68
ウェブサイトのご紹介 ～もっと ESD コーディネーター・プロジェクトを知りたい人へ	71



I. プロジェクト概要

ESD-Jは、2014年の「国連ESDの10年」終了以降もESDが社会に広がり根づいていくための仕組みを生み出すことを目指し、ESDコーディネーター・プロジェクト（2012~2014）をスタートしました。

※本プロジェクトは、『地球環境基金』と『Panasonic NPOサポートファンド』の助成を受けて活動しています。

「未来をつくる人づくり」を生み出すコーディネーターがもっと活躍できる社会の仕組みを生み出す

ESD は未来をつくる人づくり

環境破壊、貧困・格差の拡大などの問題を抱える今の社会は“持続不可能な社会”です。これを“持続可能な社会”に変えていくためには、問題解決を政治家や専門家に任せてしまうのではなく、市民一人ひとりが未来をつくる一員として、学び、考え、行動する力を身につけて、社会に参画していくことが大切です。ESD はそのための力や価値観を育む「学び」や「活動」の総称、平たく言えば「未来をつくる人づくり」です。

目指しているのは「市民力」を高め、「誰もが安心して安全に、そして公正に暮らしていけるような社会」を、民主主義を通して実現していくこと。そのために、大人も子どもも、知識獲得のみにとどまらず、参加や体験を通して自ら感じ考えることを重視し、現実社会の問題解決や地域づくりに一歩踏み出す経験を積み重ねることが重要です。

コーディネーターが活躍できる仕組みをつくる

そのような学びの場は、多様な主体の協力によって生み出されます。ESD 的な活動が、全国のいたるところで行われるようになるためには、それを進める施策が不可欠であり、その要となるのが「コーディネーターを支える仕組み」であると私たちは考えています。

学校や地域でいろいろな活動を展開している主体をつなぎ、教員の ESD カリキュラムづくりを支援する。地域における課題解決の場に市民の参画を促していく場をつくる。社会の課題解決に向けた多様な主体の協働を促す。そのようなコーディネーターが全国各地で活躍している状況を生み出す仕組みづくりに、ESD-J は 2014 年までの残り期間、全力を挙げて取り組んでいきます。

多様な主体・テーマを未来へつなぐ力を育む

地域には、市民参加のコーディネーター、ボランティアコーディネーター、社会教育主事、教育支援コーディネーター、まちづくりコーディネーターなど、さまざまなコーディネーターが活躍しています。本プロジェクトは、これらのコーディネーターの中に ESD という考え方や手法を共有してもらうこと、そしてコーディネーターという職にはついていなくとも、社会の課題に取り組んでいる方たちが多様な主体と連携していくための力（仮に、ESD コーディネーション力と呼びましょう）を強化することを目指し、研修カリキュラムの開発やその教材の制作に取り組みます。そしてそのような方たちのネットワークを各地に、そして全国レベルで生み出すことを目指します。

2012 年度の取り組み

2009 年から 2010 年にかけて、環境省事業として開催した「ESD コーディネーター育成のあり方に関する検討会」では、ESD コーディネーターの概念整理をし、地域ですでに、それぞれ異なる立場で活躍しているコーディネーターに ESD の視点を共有化・意識化していただくアプローチが重要、という方向性を打ち出しました。また育成方法として組込み型、OJT 型の研修モデルを開発しました。



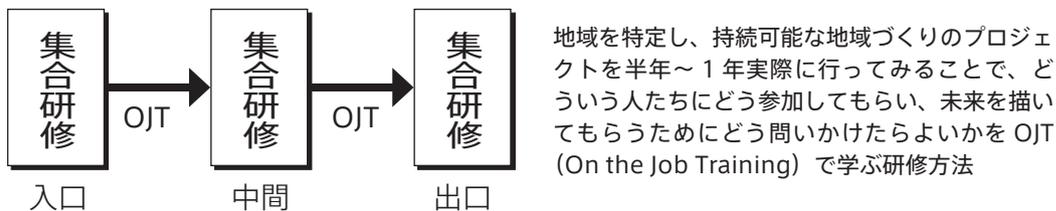
ESD コーディネーター・プロジェクトではその成果を基盤としつつ、コーディネーター育成をより具体化し、事業化していくことを目指して、2012年度、以下の3つのワーキンググループ（WG）を立ち上げ、さまざまな角度から議論を行いました。コーディネーションやESDに関する専門家等による「ビジョン&枠組み検討WG」では大枠を検討し、「OJT型研修ブラッシュアップWG」では3地域のコーディネーター研修の実績から教訓をくみ取りました。そして「関東コーディネーター学びあいWG」では関東地域の現場のコーディネーターが実践的なプログラムを検討しました。



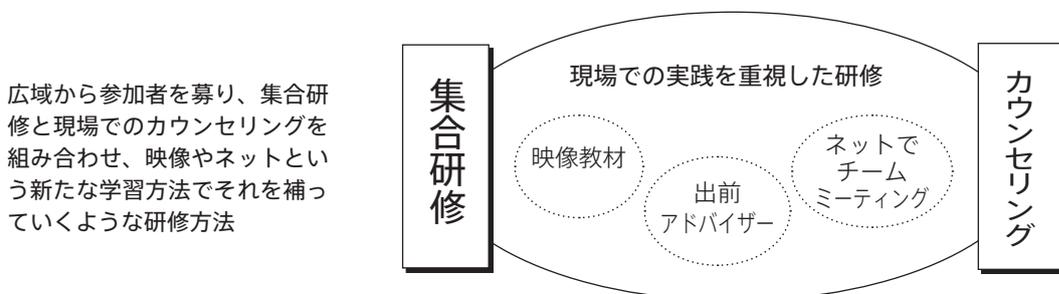
2013年度第2フェーズの方向性

そして3月15日、それぞれのWGから持ちよった成果をもとに、2013年度（第2フェーズ）のあり方を検討し、以下の2つの研修パターンに取り組むことになりました。

パターン1 プロジェクト OJT 型



パターン2 効果的・効率的な学習方法のミックス型



この報告書では、2012年度の3つのWGの検討結果を中心に、情報誌『未来へつなぐ』で紹介したコーディネーター研修の事例紹介、これまでの検討のベースとなった資料などをご紹介します。



Ⅱ．3つのワーキング・グループ からの報告

- プロジェクトの枠組みを検討する
「ビジョン&枠組み検討WG」
- 実践から教訓を抽出する
「OJT型研修ブラッシュアップWG」
- 現場のコーディネーターの課題を掘り下げる
「関東コーディネーター学びあいWG」

それぞれの成果を報告します。

ESD 理解の促進ツールと 多忙な現場をもつ人も参加できる 「あらたな研修の形」を生み出そう

ビジョン&カリキュラム枠組検討WGでは、ESDコーディネーター・プロジェクトでどのようなコーディネーターを、いつまでに何人育成し、社会にどのようなインパクトを与えようとしているのか？といったビジョンを描き、それをもとにメインカリキュラムのあり方、テキストブックの概要をまとめることに取り組んだ。ここでは、そのとりまとめの概要を報告する。

■ ビジョン&カリキュラム枠組み検討WGメンバーとプロセス

本WGは、学校と地域、それぞれでESD推進やコーディネーター育成に取り組んでいる方、そしてボランティア・コーディネーター育成を事業化されている方などの参加を得、ESD-J理事も加わって、9月から12月にかけて4回開催した。

<参加団体と参加メンバー>

ESD-J基盤強化PJアドバイザー:	早瀬昇氏(大阪ボランティア協会)
学校のESD推進組織:	柴尾智子氏(ACCU、ユネスコスクール事務局)、千葉正法氏(稲城市教育委員会)
研修事業のエキスパート:	川嶋直氏(キープ協会)、高田研氏(都留文科大学)
ESD-J理事:	壽賀一仁、森良、枚本育生、池田満之、重政子
事務局	村上千里、飯島邦子

<各回の検討内容>

第1回 2012年9月21日(金) 10:00~15:30 EPO会議室

WGの進め方、検討のためのたたき台などをESD-Jの担当理事で作成した。

第2回 2012年10月15日(月) 10:00~13:00 EPO会議室

WGメンバーでプロジェクトの目標と進め方を共有したうえで、中長期的なコーディネーター育成事業のビジョン(質や人数、活躍の場のイメージなど)、メインカリキュラム(基礎コース)の骨子案などについて検討した。

第3回 2012年11月20日(火) 10:00~13:30 EPO会議室

基礎コースのテキストブックを想定した教材の目次案を持ちより、必要な項目について議論するとともに、集合研修の限界を超える研修のあり方についても検討を進めた

第4回 2012年12月10日(月) 10:00~13:00 GEOCセミナースペース

ESDコーディネーター育成事業のあり方(検定や資格とするか、収益構造をどう作るかなど)、2014年にスタートする研修のイメージ、基礎コースおよびその教材の構成案について、WGからの方向性を取りまとめた。

【ビジョン&カリキュラム枠組み検討WGまとめより】

■ ESDコーディネーターとは？

最初に、ESDコーディネーターとはどういう役割を果たす人のことなのかを、環境省ESDコーディネーター育成のあり方検討会取りまとめの文章をもとに、再確認した。また、議論の中で、ESDコーディネーターは新しい固有の職種ではなく、すでに活躍しているさまざまなコーディネーターがESDの視点をもつことによって、地域の人々の学びあいや持続可能な地域づくりを促進していけるようになることとした。

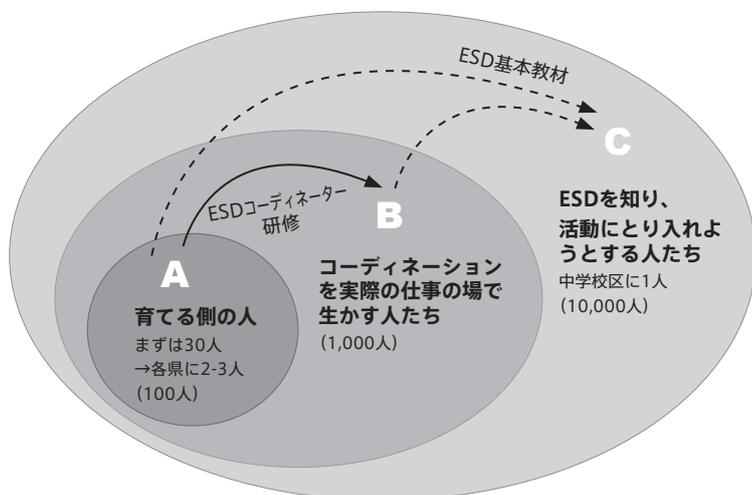
- ESD コーディネーターとは、資格を伴う固有の職種の名称ではなく、地域の中で持続可能な社会の実現に向けて、人々の参加と協働を促し、子どもと大人の学びあい、大人同士の学びあい、行政・市民・企業間の学びあいの場をコーディネートする人のことを指しています。
- 環境、人権、健康福祉、多文化共生、地域活性化など、地域が直面する課題は、互いに複雑に絡み合っており、その解決には、多様な課題を包括的にとらえ、総合的なアプローチを必要とします。
- また、そのような社会の問題を解決していくためには、多様な立場にある市民や行政、企業や専門家などを横断的につなぎ、効果的な協働を生み出していくことも大切です。
- ESD は持続可能な地域づくりや社会づくりを担う「人づくり」を目指すものであるため、ESD コーディネーターは、さまざまな活動や教育・学習を通して、個別課題に取り組む関係者をテーマを超えてつなぎ、多様な主体の学びあいを生み出し、持続可能な社会づくり・地域づくりにむけた市民の社会参画の力を育む（エンパワメントする）場をつくるのが役割となります。（⇒エンパワーする＝育てる＝コトがおこる）

■ ESD コーディネーターに重要な7つの視点

環境省の検討会で取りまとめた7つの視点は、ESD コーディネーターの資質と役割が書かれている。既に存在する多様な分野のコーディネーターとの違いは何か？ という議論も行われたが、「学びを通して」「持続可能な社会を目指す」という点の特徴であることが確認された。

- ① 地域の持続可能性、世界の持続可能性を視野にいれたビジョンを持っている
- ② 地域の課題に取り組む一員としての自覚を持っている
- ③ 市民のエンパワメントを促進する
- ④ 多様な主体（教育現場を含む）の参加と協働を促す
- ⑤ 多様な課題を把握し、分野横断的な活動を促す
- ⑥ さまざまな主体が社会的責任を果たせるよう働きかける
- ⑦ 持続可能な社会にむけたビジョンの実現に向けた道筋を示し、それをプロデュース、マネジメントする

■ ESD コーディネーター・プロジェクトが対象とする層と規模



最初の数年でコーディネーター研修を実施できる講師グループAを30名つくり、その講師たちが数人で、各地でコーディネーター研修を実施し、Bの人々を増やしていく、という目標を立てた。Bの受講対象者は現場をもっている人とした。現場とは、以下の2通りが考えられる。

- ① コーディネートを業務とする現場（社会教育主事や地域の中間支援組織）
 - ② 活動や学びの作り手としての現場
- そしてBの人たちが、地域でそれぞれにCの人たちを増やしていくことを想定している。

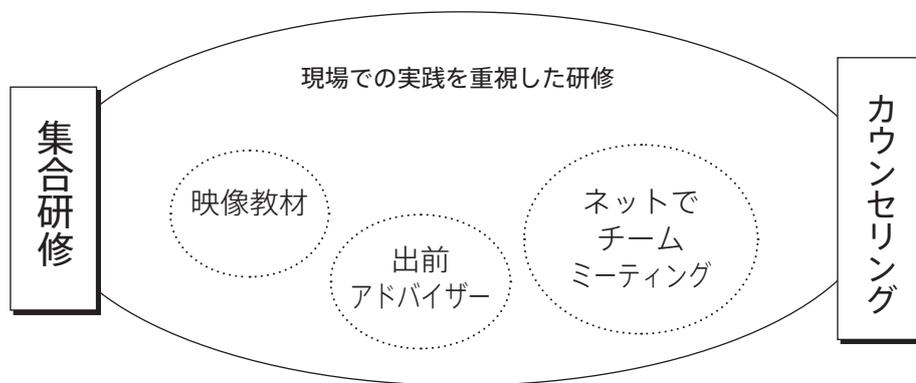
■ ESD コーディネーター育成方法の提案

WG では、A の講師たちが実施する B を対象としたコーディネーター研修カリキュラムと、A・B の人たちが B・C の人たちに ESD をわかりやすく伝えるための共通ツールとして、「ESD 基本教材（仮称）」を開発することとした。

教材は、当初テキストブックのようなものを想定していたが、テキストブックが持つイメージや形にはとらわれない、楽しくて広まっていくようなツールを生み出したいと考えている。カード形式の解説書とワークシートがセットになったもの、絵本、紙芝居、映像教材など、アイデアがたくさん出てきた。4 月の上旬には方向性のある程度絞り込み、制作に着手していく予定である。

また研修は、忙しい現場を持つ人たちが参加しやすく、かつ個別ニーズに応えられる新しい研修の形を模索する必要性が確認された。集合研修と個別カウンセリングの間には、映像教材を使った通信研修や、アドバイザーの巡回、ネット環境を活用したグループ学習など、さまざまな形が考えられる。2013 年度はこれらを効果的・効率的に組み合わせ、現場の実践者によりそった研修の開発に取り組んでいくことになるだろう。

<効果的・効率的な学習方法のミックス型>



- * 受講生は、テーマ別、もしくは地域別で小グループ（チーム）をつくり、各グループにメンターもしくはチューター（名称は仮）を配置し、アドバイスに当たる。

■ ニーズをつくりだすプロジェクト

最後に、WG の中でメンバーは、「ESD コーディネーターという存在も、ESD コーディネーター研修というニーズも、まだ顕在化していない状況の中で、このプロジェクトは事業として成立させるのは困難なのではないか」という自問も行った。

しかし、持続可能な社会づくり、そしてそのための学びの場づくりのためには、コーディネーターの存在は欠かせない。このことを次なるニーズとしてとらえ、まずはやってみて成果を見せる。「ほら、これ、必要でしょ」と提案し、「ほんとだ、いいですね」「よし、うちでも始めよう」という地域を増やしていく。そうしてニーズをつくりだしていくことで、雪だるま式に ESD が広がっていく、そんなプロジェクトに育てていきたい。

■ ESD 基本教材 コンテンツ案

カード形式（解説カード）、ワークシート形式なども検討

章	項	索引に登場するキーワード
<p>■ SD</p> <p>世界の持続可能性</p> <p>地域の持続可能性</p> <p>持続可能な社会とは</p>	<p>「持続可能な開発」の概念とその歴史</p> <p>「持続可能な開発」とは 環境問題に関する世界の約束 貧困撲滅・開発に関する世界の約束 教育に関する世界の約束 持続不可能な日本の地域の現状 持続可能な地域とは 持続可能な社会のビジョンをつくろう</p>	<p>成長の限界、ブルントラント委員会、地球サミット、アジェンダ 21、ヨハネスブルグサミット、リオ+ 20 環境、経済、社会、文化 世代間の公平と世代内の公平 気候変動枠組み条約、生物多様性条約、MDG's EFA、人権教育の 10 年、トビリシ宣言</p> <p>FEC 自給圏、幸福論から考える、GNH 環境市民のビジョン、JFS の指標？</p>
<p>■ ESD</p>	<p>ESD とは DESD 国連決議までの経緯 DESD 国際実施計画 我が国の DESD 実施計画 ESD が目指すもの 地域における ESD 学校教育と ESD</p> <p>ESD における評価の視点 ESD につながる様々な教育</p>	<p>ユネスコの定義、国内実施計画の定義</p> <p>日本の ESD 推進政策 育みたい力、価値観、育成方法</p> <p>学習指導要領、教育振興基本計画、国研のレポート、生きる力、キーコンピテンシー</p> <p>環境教育、人権教育、開発教育、多文化理解教育、消費者教育、福祉教育、ボランティア学習、サービスラーニング、PBE……</p>
現代的キーワード	MDG's と SDG's	
参考資料		「よくわかる ESD まんが読本」(1 と 2)

■ ESD コーディネーター研修ハンドブック コンテンツ案

ワークシートと解説

章	項	索引に登場するキーワード
<p>■ ESD をコーディネートするには</p>	<p>コーディネーターとコーディネーション力 ビジョンを持つ 体験と学びをつなぐ 学びと参加をつなぐ 学校と地域・企業・NPO をつなぐ 必要なスキル</p>	<p>コーディネーターが ESD の視点を持つ 実践者がコーディネーション力を高める 過去を見つめ、未来を描く</p> <p>立場・世代・地域をこえた学びあいを生み出す コミュニケーション力、ファシリテーション力、コーディネーション力</p>
<p>■ ESD をコーディネートしてみよう</p>	<p>地域にある課題、世界につながる課題を把握する 行政の施策、評価指標を把握する 関係者、地域のリソースを把握する ESD の企画書を作る</p>	<p>相談活動のロールプレイ、タウンウォッチング</p> <p>参加のデザイン</p>
<p>■ ESD コーディネーション力をチェックしよう</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、地域と世界の持続可能性を視野に入れたビジョン 2、地域の課題に取り組む一因としての自覚 3、市民のエンパワーメントを促進する 4、多様な主体の協働と参画を促す 5、多様な課題を把握し、分野横断的な活動を促す 6、様々な主体が社会的責任を果たせるよう働きかける 7、持続可能な社会に向けたビジョンに実現に向けた道筋を示し、それをプロデュース、マネジメントする

“持続可能な社会のビジョンに沿ってつなぐことで エンパワーし協働・協力関係を紡ぎだす人”をOJTで

関東コーディネーター学びあい WG は、今年度 4 回の会合を開き、ESD コーディネーターのイメージ、その育成方法について検討を重ねてきた。関東の第一線の実践者たちがまとめた内容を報告する。

■ 関東コーディネーター学びあい WG とは

2011 年度、ESD-J は環境省関東地方環境事務所の ESD 推進事業の一環として、関東 1 都 9 県（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、静岡）から、地域で活躍するコーディネーターに各都県から参加いただき、コーディネーターのあり方を考えるワークショップと「関東 ESD 学びあいフォーラム」を開いた。

そこで、コーディネーターの掘り下げていくべき課題として、

- ①参加型の地域づくり
- ②市民のエンパワメント
- ③コーディネーターのスキルアップとネットワーキング

の 3 つがあげられ、引き続き検討を深めていくことが確認された。その確認に基づき、2012 年度は ESD-J が地球環境基金の助成を受け、ESD コーディネーター・プロジェクトの一部として「関東コーディネーター学びあい WG」を立ち上げ、以下のメンバーで、8 月から 2 月まで 4 回の会合を開催した。

<各回の検討内容>

- (1) 第 1 回 2012 年 8 月 17 日 雑司が谷・子供村会議室
 - このプロジェクトの持ち方について
 - コーディネーターについてのイメージ共有、育成に関する共通理解
 - 「関東学びあいフォーラム 2012」（1/26 実施）について
 - (2) 第 2 回 2012 年 10 月 21 日 青山・ESD-J 会議室
 - このプロジェクトのまとめ方について
 - ESD コーディネーター養成講座中級編のプログラム作成について
 - 情報交流誌『未来へつなぐ』第 3 号でこのプロジェクトの成果発信について
 - (3) 第 3 回 2013 年 1 月 13 日 池袋・芸術劇場会議室
 - ESD コーディネーター養成講座中級編のプログラムの検討
 - 情報交流誌『未来へつなぐ』第 3 号の原稿の分担
 - 「関東学びあいフォーラム 2012」にて行う概要の中間発表について
 - (4) 第 4 回 2013 年 2 月 17 日 西日暮里・ESD-J 会議室
 - 情報交流誌『未来へつなぐ』第 3 号掲載原稿の検討
 - 次年度の方向性の検討
 - 各メンバーの現場で交流会の開催、検討内容の実践をしていくことの確認
-

<参加団体と参加メンバー>

- 茨城 横田能洋氏（茨城 NPO センターコモンズ）
- 栃木 菊地敦子氏（ワークショッププリコ）
- 群馬 太田祥一氏（群馬県生涯学習課）
- 埼玉 長岡素彦氏（ESD さいたま）
- 千葉 横山清美氏、桑波多和子氏（環境パートナーシップちば／ELCo の会）
- 東京 小原宗一氏（日本ボランティアコーディネーター協会）
- 新潟 阿部巧氏（中越防災安全推進機構 復興デザインセンター）
- 山梨 加藤大吾氏（都留環境フォーラム）
- 静岡 鈴木まり子氏（わくわくコミュニティ世話人）
- 事務局 森良（エコ・コミュニケーションセンター）

■ ESD の視点を持ったコーディネーターを育成するには

プロジェクトでは、まずコーディネーターについてのイメージを共有し、それを育成するためにはどうすればよいかを検討することになった。

また、「ESD コーディネーター」という固有の業種や資格者を育成するのではなく「ESD の視点を持ったコーディネーター」を育成することが大切であることが確認された。「ESD の視点」は次の3つを基本とした。

- ①包括的、総括的、分野横断的(ホリスティック)に考える
- ②当事者、関係者、参加者同士が学びあう
- ③サステナビリティ(持続可能性)を広く考え社会的公正や社会的包摂の考え方も含むものと捉える(地域の現実から出発する)

コーディネーターのイメージと必要なスキル

コーディネーターのイメージ	イメージする役割をはたすために必要なスキル
<ul style="list-style-type: none"> ・ つなぐことでエンパワーする人 ・ 協働・協力関係をつむぎだす人 →協治*の形成につなげられる人 ・ 異なる立場の人々を対等にして出会わせ、つなぎ、持続可能な社会のビジョンに沿って調整していく人 ・ 自分の行きたいところを持っている人 ・ アジェンダを持たない人** ・ 企画できる人 ・ (役所との競合)地域のしごとのプロデュースができる人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションスキル ・ 対話力 ・ 問題解決のスキル ・ 創造力 ・ ファシリテーションスキル ・ 傾聴力 ・ 質問力 ・ 専門分野の知識 ・ さまざまな主体間の調整 ・ 意見調整力 ・ 相手の立場を知る ・ 行政に対する交渉力 ・ 機会・場づくり力 ・ 情報収集力、提供力 ・ メタ認知力(俯瞰できる) ・ 伝える力(語彙力、表現力、プレゼン力、文章力) ・ 共感 ・ 度胸

* 協治：ガバナンスのこと。ガバメントが政府の法的拘束力のある決定であるのに対しガバナンスは当事者、関係者による合意形成・意思決定を表わす。

**アジェンダを持たない人：アジェンダ(計画、議題)はあくまでも当事者が設定するもの、それを尊重してコーディネーターが動くのであって、コーディネーターが予めアジェンダを持って動かしてはならない。

☆コーディネーターがやってはいけないこと(例：介護の原則)

介護の原則とは、「その人ができることをしてはいけない」

というもの。当事者が力を発揮して自力で解決していけるようにするのがコーディネーターの役割であり、当事者の力を奪うようなことはしてはいけない。

■ 課題：コーディネーターの必要性の見える化

なぜ、ESDの視点を持ったコーディネーターが必要なのかについて改めて検討を行う課程で、コーディネーターを育成していくときの課題も議論された。コーディネーターの仕事をどう評価するか（評価方法、基準）とそれをどう「見える化」（一般の方々に理解してもらう工夫）するかである。ESD活動をコーディネートすることによる質的变化をどう評価するかについてさまざまな意見が出された。

主な意見としては、

- ・ 共同評価（自己評価×他者評価）の必要性
- ・ コーディネーターの存在、（不在）による事業の成果／評価について
- ・ コーディネーターが関わることによる成果のプロセスを示すこと

等であったが、このテーマは、

- ・ コーディネーターの社会的認知や自立
- ・ 専門化による持続可能な社会のための人材養成
- ・ そのための仕組みづくり

を考えていく上で重要であることが確認された。持続可能な社会の実現に向けてはそれぞれ各領域の活動を有機的につなげていくことにより、単独分野でのアクションよりダイナミックなアクションが可能となる。そのために、それぞれの領域をつなぐコーディネーターが必要である。

■ 育成方法の提案：ESD コーディネーター養成講座中級編

地域で活躍しているさまざまな主体に対し、課題解決に向け共通ビジョンを持ってもらい、そのビジョンを核として、それぞれをつなげる場の提供を行うことはESDの大きな機能であり、それを行うのがESDコーディネーターの役割の一つである。本WGでは、最後にそのようなコーディネーターの育成方法について「養成講座中級編」というOJTをメインとした半年のコースとしてまとめてみた。

地域において、ESDコーディネーターとして活躍するために要求される能力やスキルはどのようなものが想定されるか。専門職と兼業、活動経緯や領域の違い等、個人により差異はあるが、共通に持つべき「知識」や「技術」、その根幹にある「思い」はあるはずである。その共通部分をベースとし、さらに「チームビルディング」、「コミュニケーションスキル」、「ネゴシエーション能力」や「伝える技術」等さまざまなスキルが要求される。

ESDの視点でコーディネートするスキルを持った人材養成のため研修プランの大枠は、「入口」－「中間」－「出口」の3ステップから構成することとした。それぞれの段階に応じた研修内容は以下の通りである。

入口 部分は自己を見つめ直すことから始める。自分自身の得手・不得手を客観的に把握し、弱点を克服し得意分野を伸ばしていく。そして、ビジョンの明確化や場のコンテキストの設定手法を基本研修として組み入れる。参加者によって研修内容にアレンジを加えていく。

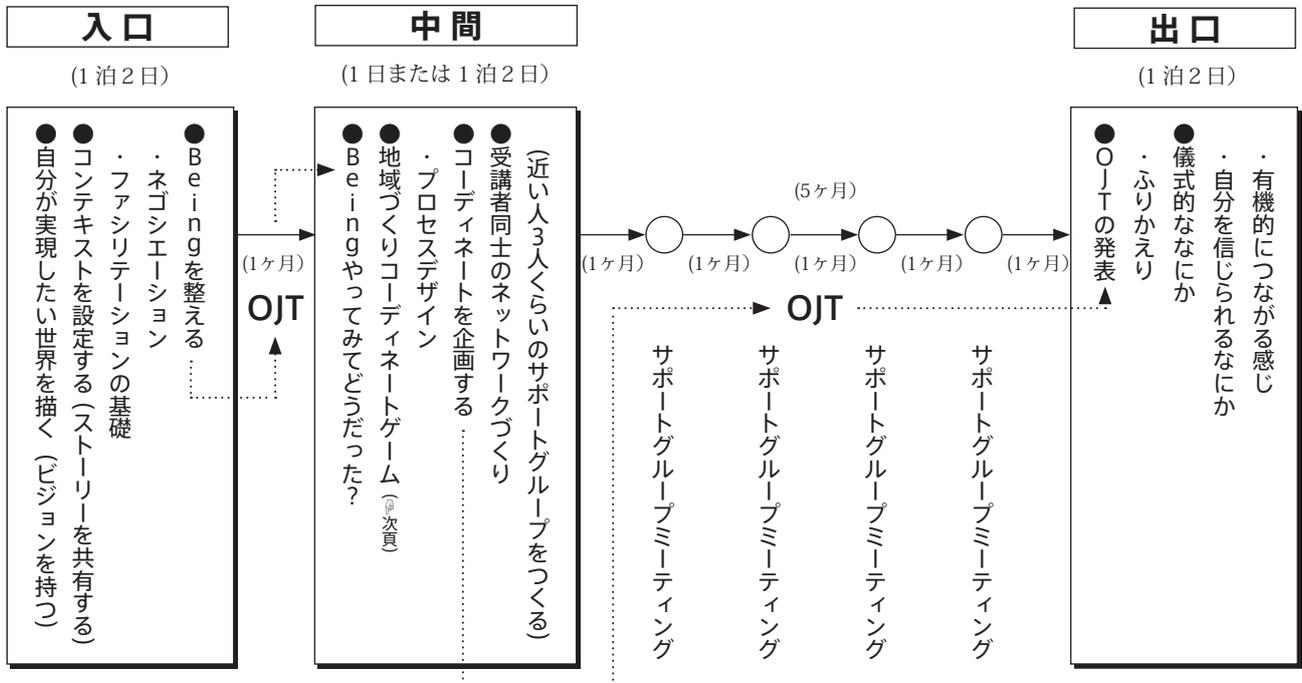
コンテキストの設定はコーディネーターの仕事の核をなすものである。ステークホルダーは皆それぞれの脈絡（コンテキスト）のなかで活動している。それらをしっかり読み取り、すべてのステークホルダーの共通の脈絡に置き換えていくのがコーディネーターの仕事になる。言い換えれば、こういうことだったらいっしょにできるねという共通のストーリーづくりのお手伝いをすることである。

コーディネーターとは人と人との間に入りかかわることであるから「どうあるのか（Being）」が極めて重要である。自己を振り返り、自分の「弱み強み」や自分が場に与える影響等を客観的に把握する研修を行う。研修後、実際の自分の活動にフィードバックを行う1か月程度のOJTを行う。

中間 部分は、地域の課題を知り、課題解決に向けた地域やリソースとの関係性を構築していくための研修を共通内容とし、それぞれの地域や課題の実情に合わせた地域ESDネットワーク構築に向けた具体的なコースデザイン、コーディネートプランニング等の研修を行う。地域や活動内容が近いメンバーでサポートグループを作りネットワークの核を作る。研修内容を自分の活動にフィードバックする概ね5か月程度のOJTを行う。サポートグループでは1か月に1度程度のミーティングを行い、お互いのOJTについて報告を行い、励ましあう。

出口 部分は、地域における他のリソースとのネットワーク化を目指す。自分が行っている活動に関する情報の発信及び活動継続のためのファンドレイズを共通内容とし、それぞれが属している団体、組織、地域の活性化を目指しチーム力の強化を図る。構成員が自己の役割を認識し、その能力を適切に発揮できる組織作りのための「気づき」を促し、自分や社会にとっても役立つモノと一緒に作りあげようというコミット感が共有できるためのスキルアップを目指す研修である。

ESD コーディネーター養成講座〈中級〉プロジェクト OJT 型 (案)



■ 社会がコーディネーターを支える仕組みを

ESD コーディネーターが「ブランド」として確立し、さまざまな地域課題の解決や望ましい社会の実現に向けて「中心」として力を発揮していくためには、社会がそれを支える仕組みが必要である。一般市民がそこに価値を見出し「有償活動」として認知されるように、我々はきちんと成果を残していかなければならない。また、そのような仕組みづくりにより、地域が一体となった持続可能な社会も期待できる。

一般の人に広く理解を求めて成り立つ仕組みというのは現状では困難であるが、そこを目指すことは可能であり、目指していきたい。

コーディネーター研修の3つのポイント ものの見方・考え方を共有する。 Beingをつかむ。 体験から学ぶことを知る。

環境省の検討会では、ESD コーディネーターの育成方法として、既存のコーディネーター研修に ESD の視点を導入していただく「組み込み型」と、集合研修と OJT を組み合わせた「OJT 型」の研修をモデル実施し、検証を行った（とりまとめ文書及びモデル実施概要はⅣ．参考資料 p34～p55 参照）。このワーキングでは、そのなかの OJT 型研修モデルを参考にしながら、独自事業として ESD コーディネーター研修に取り組む 3 地域に参加いただき、それぞれの実践から、このモデルをブラッシュアップするために重要な視点や、具体的な方法を抽出することに取り組んだ。

■ OJT 型研修ブラッシュアップ会議のメンバーとプロセス

会議には、北九州市、岡山市、稲城市でそれぞれに ESD コーディネーター研修・ESD 研修に取り組む自治体、企画運営団体、そして講師を務めた方々にご参加いただいた。講師のみなさんは 2009-2010 年の環境省の検討会で委員を務めている。10 月と 2 月に 2 回の会議を開催した。

< 参加団体と参加メンバー >

- | | |
|-----|---|
| 北九州 | 伊東信二氏（北九州市）
三隅佳子氏（北九州サスティナビリティ研究所）、樋上禎子氏（同左）
高田研氏（都留文科大学） |
| 岡山市 | 原明子氏（岡山市）、重森しおり氏（岡山市立中央公民館）
松原裕樹氏（EPO ちゅうごく）
志賀誠治氏（人間科学研究所） |
| 稲城市 | 千葉正法氏（稲城市教育委員会）
森良氏（エコ・コミュニケーションセンター） |

< 各回の検討内容 >

第 1 回 2012 年 10 月 9 日（火）15:00～18:00 EPO 会議室

WG の進め方を共有した後、3 地域で取り組む予定の研修企画について情報共有、意見交換を行った。

第 2 回 2013 年 2 月 21 日（木）11:00～17:00 日能研西日暮里校 6F 会議室

3 地域で行った研修結果を共有し、来年度、ESD コーディネーター研修カリキュラムを組み立てていくときに重要となる視点や、具体的な方法を抽出することに取り組んだ。

■ 「OJT 型研修」と各地の取組み

そもそも、ESD の視点をもったコーディネーターは現場から切り離された研修で育成できるのか？ コーディネーターに必要な態度やスキルは、学んだことを現場で生かし、苦労しながら身に付けていくことしかできないのではないのか？ という考えのもとに提案された研修の枠組みが「OJT 型研修」だ。OJT（On the Job Training）とは、職場内で上司や先輩が日常の仕事を通じて、必要な知識・技能・仕事への取組み等を教育することだが、ここでは集合研修のスケジュールの中に OJT 期間を設け、研修で学んだことを自分の持ち場で実践し、その結果を集合研修に持ちよって、さらに研修に生かしていく、という枠組みのものを指す。

北九州では地域でコーディネーターの役割を担う人たちを対象に、この OJT 型研修が行われた。岡山では OJT 型ではない、ESD コーディネーター入門編の研修が行われた。そして稲城では教員対象の ESD 研修が行われたが、その中で地域の NPO や学校コーディネーターも一緒に参加し授業研究を行うことで、連携を育む場を創出している。(各地の実施概要とレポートは p18 ~ p23 に掲載)

■ ESD コーディネーター研修において重要な視点

Pont1 ESD に必要な「ものの見方・考え方」を学ぶフィールドワーク

ワーキングでは、研修に欠かせない重要なポイントとして、「ものの見方・考え方」を磨くことが指摘された。「そこにある課題を見つける力を養う」「どこに課題を感じ、どうしたいのかを考える」「どう地域へ広げていくのかを考える」などが大切であり、だからこそ、地域のリアリティ(=現場)の中でフィールドワークや OJT を行うことが必要なのだと。「答えは現場にある。だから“現場を見る”ことは必須」「社会の課題に向き合うスタンスのない研修は、魂のない仏」

Pont2 コーディネーターとしての Being をつかむ

コーディネーターに必要なスキルやノウハウはたくさんあるが、それらをひとつひとつ教える研修には限界がある、という指摘もあった。

それよりも、そもそも自分はどのような存在か(=Being)を知り、地域の中で自分はどうありたいか(=Being)を見つめ、立ち位置を認識することが大切である。意識(Being)が変われば行動(Doing)はおのずと変わる、スキルは後からついてくる。あとは現場でやってみて、困ったらサポートできる仕組み、「駆け込み寺」のようなものがあればよいのではないか。

Pont3 体験を通して学ぶ、人はいつ「変わる」のか?を知る

学びの手法として体験学習法のプロセスを用いる。具体的なフィールドワーク(見えているもの/行為=do)を通して、人と人、経済などの関係性を問う(見えていないもの/想い=look)。そして地域の課題を解決するために市民をどのようにつなぐのか、どのような行動を紡ぎ出すのかを考え(think)、そしてその意味(being)を自分につねに問いかけ、行動への原動力としていく(grow)。

ESD の「E」の事例として、研修のプロセスを通して体験学習法そのものを理解してもらうことも重要である。

～持続可能な地域づくり、学びの場づくりに大切なコト～

EPO ちゅうごく（中国環境パートナーシップオフィス）では、ESD に基づく環境パートナーシップを促進するため、ESD の理解促進やネットワーク構築をねらいとした、ワークショップやフォーラム、人材育成のためのセミナー等を中国各県で行っています。今年度は、公民館を拠点とした地域総働型の ESD を核として、多様な ESD の取組が広がっている岡山市と連携し、2 日間の ESD コーディネーター育成セミナーを実施しました。

平日開催の中、20～30 代といった比較的若い年代や、学生、NPO 関係者、企業社員、行政職員など、多様な属性の方が ESD の可能性に期待して大勢参加しました。初めて ESD という概念に触れる方もいたので、研修は ESD の基本やコーディネーターに必要な 7 つの視点、参加型の学びの場の作り方・まわし方といった基礎的な目標と内容を設けました。

- 【日 時】 2013 年 1 月 30 日（水）10:00～18:20、31 日（木）9:00～17:15
 【場 所】 ゆうあいセンター（岡山県岡山市）
 【参加者】 32 名
 【講 師】 志賀誠治（人間科学研究所）
 【主 催】 環境省中国環境パートナーシップオフィス
 【協 力】 岡山市
 【目 的】 持続可能な地域づくりに向けて、NPO・行政・企業・地域住民など多様な主体や世代の参画と協働を促すための、学びあいの場をコーディネートする人材（＝ESD コーディネーター）を育成する。
 【目 標】 整理する／ESD に関する知識・情報・課題について整理する
 つながる／ESD にかかわる人々がつながりあう
 やる気になる／ESD コーディネーターとしてのやる気を醸成する

<1 日目>

時間	内容	詳細
10:00～	オープニング オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 主催者あいさつ オープニングスライドショー観賞と感想のわかちあい 講師自己紹介、目標・日程・心がまえ・役割の共有
11:00～	セッション1 こんにちは！はじめまして！	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介風のアイスブレイキングを通じて、参加者の相互交流や参加動機の明確化などを図る 参加型の場におけるアイスブレイキングの意味についてミニ講義
12:15～	昼休憩	
13:15～	セッション2 これだけは知っておきたい ESD の基本	<ul style="list-style-type: none"> フリップ方式ディスカッションで、参加者の ESD 観や ESD における関心事、ESD で大切にしている教育の視点などについて議論 その後、ESD で抑えておきたい基本情報についてミニ講義
15:20～	セッション3 私のライフスタイルから ESD を考える	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身のライフスタイルや価値観をふりかえることで、改めて ESD に関わっている自分自身のあり様について考えるグループワークを実施。
17:15～	セッション4 ESD が目指す教育の特徴	<ul style="list-style-type: none"> セッション3のグループワークを題材にして、参加体験型学習の理論や考え方、運営のポイントなどを見に講義
18:05～	1 日目のふりかえりとわかちあい	
18:20	1 日目終了	



8つのセッションでは、講義やグループワークなどを通して、一人ひとりがESDという視点やコーディネーターとしての自分のあり方を整理し、参加者同士でお互いの価値観やビジョンを共有。“2日間のふりかえりとわかちあい”では、「コーディネーターやファシリテーターとしての役割もしっかりと学んだけれどそれ以上に多くの人の声が聴けてよかった」という感想が多くありました。また、講師のファシリテーションから、「場づくりの大切さや自分の意見を受け入れてもらえる嬉しさを体験することができた」と、参加者の満足度は高かった様子。

今年度は、2日間のESDコーディネーター育成セミナーを実施し、多様な参加者がESDについて理解を深めることができ、持続可能な地域づくりに向けた関係構築やコーディネーターとしての役割・あり方の見つけ直し、今後の実践に向けた意識を高める機会となりました。ただし、今回は基礎的な研修内容であったため、OJT型研修の実施に向けて、基本的な知識や技術の習得だけでなく、具体的な事例からの学びあいや実践の機会、それに伴う評価・検証等の必要性を感じました。

《報告者プロフィール》

松原 裕樹（まつばら ひろき）

1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境・国際・教育・観光・地域づくりなどの分野で活動中。「学び」と「関わり」のデザインを手法とした事業の企画や運営、コーディネートを行っている。2012年より、中国環境パートナーシップオフィス（EPO ちゅうごく）に勤務。



<2日目>

時間	内容	詳細
9:00～	アイスブレイキング	・ エナジャイズ、コミュニケーションワーク
9:35～	セッション5 ESDコーディネーターって何だ？	・ 環境省が実施したESDコーディネーター育成のあり方検討会の議論のポイントについて解説。その後、ESD-J副代表池田氏からESD-Jが取り組もうとしているコーディネーター育成について情報提供
11:05～	セッション6 コーディネーションのツボはここだ！	・ ESDコーディネーターに求められる「協働促進」の役割と機能について「ファシリテーター」という文脈で整理し解説
12:20～	昼休憩	
13:15～	セッション7 みんなの疑問にみんなで答える	・ ESDやコーディネーターについて解決したいテーマや疑問を抽出し、解決したいテーマごとにグループにわかれて議論。その後、ツアー形式で各グループの議論を聞いてまわり内容をわかちあう
15:30～	セッション8 コーディネーターを始めるためのエクササイズ	・ ESDを通して実現したい未来像をグループで出しあい共有した後、コーディネーターとして、そのことにどのように関わっていくかの行動規範を考え発表する
16:45～	2日間のふりかえりとわかちあい	
16:55～	クロージング	・ 閉会、挨拶、アンケート記入
17:15	終了	

ESD コーディネーター育成セミナー

— 2050年の大人づくり —

稲城市は東京都の郊外に位置し、梨の産地として豊かな自然が残る住みやすい街です。全国的にも珍しい人口が増加傾向にある街でありながら、多摩川や里山、梨・ぶどう畑、牧場などの自然環境を活かした学習がこれまでも各学校で取り組まれています。また、そうした学習過程では地域住民の協力を得ながらの教育が充実しています。現在までに全小・中学校がユネスコスクールへの登録申請を済ませており、第二次稲城市環境基本計画にもESDが位置づけられた現在、今後はさらにESDの視点から各学校の教育内容の充実や指導方法の改善などが行われることや、地域住民や企業、大学やNPOなどの学校教育への参加や参画が、これまで以上に求められています。

全校で面として進めるESDは、社会的・国際的な課題を横断的に取扱う問題解決的な未来志向の学習であり、学校外の教育力を積極的に内包化する必要性があり、上記の役割を担うコーディネーターの育成と参画が目下の課題となっています。

- 【実施期間】 2012年6月～2013年2月（全8回）
- 【場 所】 市内の学校等
- 【参 加 者】 市内教員 20名 市民 3名
- 【講 師】 森良氏（ESD-J 理事、エコ・コミュニケーションセンター代表）
田村学氏（国立教育政策研究所 教科調査官）
- 【主 催】 稲城市教育委員会

日時	内容	詳細
6/12（火） 14：30～	〈第1回〉 講座：各校のESDカレンダーについて	全校がすでに作成しているESDカレンダーを持ち寄り、テーマ別に分科会を開催して、取組み内容の発表や意見交換を行い、小・中の接続や各学校の年間指導計画の改善にフィードバックした。
7/8（金） 14：30～	〈第2回〉 講座：各校の課題を持ち寄り、改善について検討	実際の授業を想定した各学校の具体的な指導案を持ち寄り、類似したテーマや活動の分科会毎に意見交換を行い、改善点や地域の支援者について情報交換を行い、実践の授業に向けてブラッシュアップした。
9/21（金） 14：30～	〈第3回〉 公開授業1：「坂浜の水・上谷戸親水公園について考えよう」	稲城第二小学校が4年生で取り組んでいる環境教育とコミュニティーづくりに関わるESDプログラムを授業見学した。指導者側の教科間の連携の働きかけや児童が地域の課題を解決する実践活動として具体化している点がESDとして工夫されていた。
10/30（火） 午後	〈第4回〉 公開授業2：「ESDの視点にたった防災教育」	稲城第五中学校が全校生徒で取り組んでいる防災に関わるESDプログラムを見学した。東京都の帰宅困難者対策条例の創設に合致した「自助」の重要性の理解と実践（子ども防災自助パック等）や、「共助」の視点から実践化を図る災害弱者支援や避難所での貢献活動を具体的に想定している点がESDとして工夫されていた。



学校がESDコーディネーターに求める資質・能力は、ESDの知識、地域社会の情報掌握、人材・教材へのアクセス、学校と教育課程の理解、ファシリテーションスキルの5つです。

ESDのコーディネーター育成については、私の前任地である多摩市での経験を踏まえてESD-Jと連携を図りながら、ECOMの森良氏を通年の講師として招へいして、OJT型の研修会を全8回実施しています。現在は学校へのESDの浸透を中心に据えていますが、地域住民をはじめ関係者には研修をオープンにしており、誰でも参加できます。教員と役所の環境担当者・地域住民・保護者などが一緒に研修に参加しながらESDの指導計画の作成を進めており、コーディネーター育成の側面も含んでいます。

その過程では、閉じた中では得られないアイデアや解決方法が生み出され、最終的には児童・生徒にとっても魅力のあるESDの学習が生み出されることが期待されています。一時的な授業の支援者としてではなく、企画やその評価にもコーディネーターが携わることが必要だと考えています。また、教育課程や学校や教員のもつ文化などへの理解促進や学校組織との課題の共有、人間関係の構築や促進なども研修の意味としては、重要なものと考えて位置付ける必要を感じており、今後も充実させたいと考えています。

《報告者プロフィール》

千葉 正法 (ちば まさのり)

東京都世田谷区、杉並区で公立中学校国語科教員として勤務の後、八王子市教育委員会指導主事、多摩市教育委員会統括指導主事、同参事を経て、現在は稲城市教育委員会参事・指導室長。幼少から晴釣雨読の生活を送り、現在は「2050年の大人づくり」をテーマとして、国語科教育とESDの側面から学校教育を支援している。



日時	内容	詳細
11/13 (火) 午後	〈第5回〉 公開授業3:「大豆を育ててとうふを作ろう」	若葉台小学校3年生が取り組んでいる食育と農業に関わるESDプログラムを見学。都市農家と児童と一緒に栽培した大豆を使い、豆腐屋さんから直接豆腐作りについて学びながら、栄養教諭も加わり日本の食と人とつながり、その工夫などについて具体的に学んでいた点がESDとして工夫されていた。
12/14 (金) 午後	〈第6回〉 公開授業4:「ユニセフクリーン大作戦」	稲城第四中学校の全校生徒で取り組んでいる環境と社会貢献に関わるESDプログラムを見学。学年ごとに取組みに対する役割をもち、環境美化から国際貢献、地域コミュニティの活性化といった実践的な点がESDとして工夫されていた。
1/19 (土) 午後	〈第7回〉 ユネスコスクール研修会 in 多摩	多摩第一小学校の先進的なESDの取組みの全年齢公開授業を参観した後、多摩地区のESD推進校の教員や関係者が一堂に会し、各学校のESDの取組みを交流し、ASPUnivNetの玉川大学も加わり、今後のESDの実践についてパネルディスカッションを行い研修を深めた。
2/26 (火) 午後	〈第8回〉 ESD見本市	学校で行われているESDを広く周知するために、市内小・中学校のESDの取組みを公共施設ロビーで一週間公開。各学校の担当者がESDの取組みやそのポイントを発表して交流を進めながら市民へのESDの浸透を図り、次年度のESDの支援者やコーディネーターを募った。

ESD コーディネーター育成講座 「ESD 未来創造セミナー」

～市民センター館長・社会教育主事等を中心に～

北九州市では、2011年に選定を受けた「環境未来都市」の実現に向けて、地域の力やつながりを要としたさまざまな取組みを進めています。中でも、持続可能な社会づくりを担う人材育成は不可欠。すでに地域などの現場で核となって活動している、市民センターの館長、社会教育主事・主事補、環境学習施設の職員等を対象に、ESD コーディネーター育成講座「ESD 未来創造セミナー」を実施しました（※ 詳しい背景や目的、実施結果などは p30～P31 を参照ください）。

【実施期間】 2012年12月～2013年3月（全3回）

セミナーⅠ 2012年12月1日（土）～2日（日） 9:00-17:00

宿題（地域でOJT） 12月～1月

セミナーⅡ 2013年1月26日（土）～27日（日） 9:00-17:00

フォローアップ会合 2013年3月2日（土） 13:30-16:30

【参加者】 セミナー：市民センター館長、社会教育主事・主事補、環境学習施設の職員等 46名
フォローアップ会合：一般市民も含む 104名

【講師】 高田研氏（都留文科大学教授） 池田満之氏（ESD-J 副代表理事）
西村仁志氏（広島修道大学准教授） 村上千里氏（ESD-J 事務局長）

【主催】 北九州市、NPO 法人北九州サステナビリティ研究所

セミナーⅠ 基礎習得

時間	内容	詳細
【1日目】 9:00～	オリエンテーション	挨拶、スタッフ紹介、自己紹介
9:30～	講義「ESDのこれまでと考え方」	基礎的知識の習得、ESD教育の要、ESDコーディネーターの役割・スキル、ESDの視点等の習得
11:00～	活動紹介（北九州）	北九州市における公害や女性活動の歴史から、地域課題への意識やESDの重要性及び北九州ESD協議会の活動紹介
12:00～	昼食	
13:00～	事例紹介①（岡山市京山公民館）	岡山市京山地域の事例から、地域を変えるプロセスを知る
14:00～17:00	グループワーク①（ESDを推進する上で習得したいこと） グループワーク②（地域課題解決に向けた短・中・長期計画づくり）	<ul style="list-style-type: none"> ESDの共通認識をもつ 各グループがテーマ（動く、つなぐ、原点、指導法、子ども、見付ける等）ごとに話し合い、発表によって参加者間で共有する 地域課題を見付け出す視点を身に付ける
【2日目】 9:00～	フィールドワーク（6チームに分かれてタウンウォッチング）	<ul style="list-style-type: none"> 地域、歴史等についてのレクチャー 「人と自然のつながり」と「時の流れ」をテーマに、あらためて地域を見直す
12:00～	昼食	
13:00～	フィールドワークのまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 上記の2つのテーマを視点を、気づき・見つけた課題を地図に書き込む このまちを表現するCI(CorporationならぬCity Identity)をつくる チーム発表
16:30～17:00	次回に向けたガイダンス	宿題：2日間の学習をふまえ、自分の地域をタウンウォッチし、課題を見つけ、解決プログラムを地図に書き込む



Ⅲ.『未来へつなぐ』より コーディネーター研修の現場から

ESD コーディネータープロジェクトでは、さまざまな現場で活躍するコーディネーターに役立つ情報交流誌『未来へつなぐ』を3号発行しました。

その中から各地で展開されているコーディネーター研修を紹介するシリーズ「コーディネーター研修の現場から」をご紹介します。

* 「未来へつなぐ」は12ページのニュースレターです。

バックナンバーはウェブサイトからダウンロードいただけます。



千葉県コミュニティプランニングコーディネーター育成講座

NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT 副代表理事 小山淳子



1. 育成講座のねらい

NPO 法人 CoCoT は、平成 23・24 年度「千葉県コミュニティプランニングコーディネーター育成講座」を開催している。本講座では、3.11 の震災後の課題を踏まえて、平常時と災害時のいずれにおいても高いコーディネーション機能を発揮する専門性とスキルを身につけたコーディネーターの育成を目的としている。その目的達成のために、コーディネーターに必要な不可欠な専門性・スキルを抽出し、習得することを目標とした。また、身につけた専門性やスキルを継続・発展させるためには、サステナブルな学習支援およびネットワーク形成が必要と考え、その体制づくりにも取り組んだ。

千葉県は、東京都に隣接した都市として住居地区となっている県北西部の一方で、東部や中南部では多くの地域で人口の減少している現状もある。それらを踏まえると、それぞれの地域特性や職場環境・雇用形態により、業務に対する考え方や取り組み方は、千差万別である。そのため、育成講座のプログラムは、地域特性を捨象した地域社会に対する働きかけについて共通の認識を導入の段階で持てるようにした。カリキュラムは、全体の構成を基礎領域と専門領域に分け、コーディネーターが持つコミュニティにおける役割の基本的な考え方や姿勢、基本技能を学ぶことを基礎領域とし、専門領域では現場研修も含めた応用技法の習得を目指した。

2. コミュニティプランニングコーディネーターとは

では、私たちが目指すコミュニティプランニングコーディネーターはどのようなものであろうか？ これまでのボランティアコーディネーターは、支援対象の基本を個人とし、地域社会の中で一人ひとりの人権が尊重される状態を作り出す専門職として位置づけられてきた。コミュニティプランニングコーディネーターは、基本を支援対象ではなく、プロセスに置いてある。極めて個人的な思いや不安要素を引き出し、社会的な俯瞰した視点から考察しその背景と潜在している地域課題を洗い出す。さらに、共感者、地域ネットワークへと段階的なマッチングとコーディネートを経て、課題解決に向かう。市民が地域の課題を自らの手で解決していくためのプロセスを作り出す専門職である。先に地域課題があり、その課題解決に向けて、必要な要素を洗い出し組み立てていくのが、コミュニティプランニングコーディネーターの仕事である。

地域社会には、近年の社会的課題の多様化・深刻化にともない、行政サービスだけでは対応しきれない社会的弱者の存在が顕著となっている。この人々に対しては、地域のきめ細かな課題に対応できる NPO のサービスを提供することが期待されている。NPO のサービスは 1998 年の NPO 法施行以来、質量ともに増加したが、その情報量の多さが、逆に適切な判断を下しにくい状況を作っている。地域のなかで散逸した大量な地域課題・NPO の情報から、必要なデータを出さなくてはならない。そのまま提供するだけでは意味がない。情報を分析し、文脈化し、情報を有効活用できる“かたち”に咀嚼して、必要とする人や組織的に確に渡すことのできる技術が必要である。更に、そうした NPO の情報を、社会的弱者とその支援者が入手し、活用することのできる体制を整備しなくてはならない。コミュニティプランニングコーディネーターは、「情報の目利き」である。

3. 育成講座の内容

情報を取捨選択し、判断のプロセスに市民が参加していくことを支援するプロセスを描き実現に向けてマネジメントしていくための力量をどのようにつけていくか。以下は講座の内容である。

〔対象〕千葉県内の市民活動に関わる組織や団体（中間支援組織のスタッフ・就職希望者、自治会、ボランティアを受け入れている団体、施設のスタッフなど）

〔期間〕4 ヶ月間

〔内容〕次ページのカリキュラム参照のこと

4. 育成講座の効果

育成講座を通じて「地域課題を把握する力」「情報を収集し活用する力」「企画立案力」の 3 点のコーディネーションスキルと実践力をつけることを目標とした。そして、その目標が達成されていることを示す指標を「研修終了後に研修参加者の住む地域の課題解決コーディネートプランが出来上がっていること」に置いた。市民活動センターや社会福祉協議会での実地研修もカリキュラムとして取り入れた。これによって机上の空論で終わらない学びや気づきを研修参加者に提供することができた。実地研修後にコーディネートプランの内容が深まった参加者も少なくない。

「コミュニティプランニングコーディネーター育成講座 修了式」におけるコーディネートプラン・成果発表では、実際に 10 のコーディネートプランが発表された。なかにはすでにプランに基づいてプロジェクトが立ち上がっているケースもあった。育成講座が実践的なものであったことを示している。

コミュニティプランニング・コーディネーター育成講座 カリキュラム

	10～17時	内容（講師）
基礎領域	第1回	「コミュニティ再生のためのコーディネーターの役割」（安藤雄太） NPOの基礎知識、NPOの歴史的背景と市民社会で果たす役割を学ぶ
	第2回	相談技術のスキルアップする 初級編（小山淳子） 相談技術の基本を学ぶ。
	第3回	相談技術のスキルアップする 応用編（小山淳子） 実際の事例を材料にグループワークとロールプレイで学ぶ。
	第4回	ファシリテーションスキルを磨く（庄嶋孝広：市民社会パートナーズ） 会合や講座などを進めていく基本技術を身に着ける。
	第5回	ワークショップによる実現可能な企画立案の基本を学ぶ（山崎富一：NPO 法人笑顔せたがや）
専門領域	第6回	情報収集・ネットワーキング（小山淳子） 共感者・支援者を得、企画を実現していくためのプロセスづくりと必要な情報収集の方法について学ぶ。
	第7回	論理的思考による事業成果を引き出すためのプログラミング 内容のワークシートを使って、原因と課題と成果の整合性がとれる事業計画書の作成（矢代隆嗣：アリエールマネジメントソリューションズ）
	第8回	千葉県内での中間支援組織での実地研修
	第9回	被災地での現地研修
	第10回	課題解決のためのコーディネートプラン（森良） 「プロモーションができるコミュニティプランニングコーディネーターを目指す」

5. 今後の課題

①継続的にコーディネーターを教育する体制が整っていない
実際に市民活動センターや社会福祉協議会でコーディネーターを体験する実地研修もカリキュラムとして取り入れ、現場を見て知り体験することの有用性が高いことが明らかとなった一方で、受け入れ態勢の脆弱性も浮き彫りになった。受け入れ施設においても、それぞれのプログラム内容の質に大きなバラつきがあった。恒常的実践的な教育体制の整備と専門職養成の教育カリキュラムの確立は不可欠である。コーディネーターがその高い専門性・スキルを維持・開発していくことにおいても、日ごろからトレーニングできる環境と教育機関を整えておくべきであろう。

②コーディネーターが社会的に認知され活躍できる土壌がまだまだ育まれていない

高い専門性・スキルを持ったコーディネーターを養成しても、それを十分に発揮できるポジションやフィールド、チャンスなどが与えられなければ意味がないといえよう。歴史的にボランティアコーディネーターという呼称を用いて配属してきた社会福祉協議会に対して、公設の中間支援センターではコーディネーターを配置しているセンターは未だに少ない。社会福祉協議会においても、非常勤職員や、常勤職員でも兼職をしているなど、専門職としての位置付けをしているところは多くない。こういった実情を踏まえると、育成された人材がその力を発揮できる職域の開拓はこれからの大きな課題である。

一言コメント（編集長：森良）

持続可能な地域づくりのコーディネーターは、地域課題を住民・当事者自身が解決していくプロセスをプロモートできなければならない、という強い動機に裏付けられている。編集方針で述べた①参加型の地域づくりと②市民のエンパワーメントを推進していく力をつけるための講座である。

終了後もそれを保障していくための「同窓会」が行われている。講座は入り口であって、参加者同士がネットワークしてサポートしあうことが大切である。



団体紹介：CoCoT

CoCoTは、地域に住む人々が、自己決定力と課題解決能力をもち、市民自治を実現する社会を目指しています。そのためには「地域課題の解決のための市民参加の促進」「NPO・市民活動団体の支援と強化」が必要です。CoCoTは、市民、NPO、行政、事業者など地域の各主体をコーディネートすることで、この課題に取り組むとともに、担い手となるコーディネーターの育成に取り組む中間支援組織です。

岡山市における公民館職員向け ESD コーディネーター研修

岡山市 ESD 最終年会合準備室 原 明子
岡山市立中央公民館 主任 重森しおり

1. はじめに

岡山市では 2005 年に、学校や市民団体、企業、行政など、立場や分野の違う人たちが集まり ESD を推進する「岡山 ESD プロジェクト」が始まりました。岡山市の特徴のひとつは、市内に 37 ある公民館を地域の ESD 推進拠点と位置づけ、それぞれの地域で ESD を進めていることです。岡山市はもともと公民館活動が盛んで、「共生のまちづくり」という公民館の指針と ESD の理念が一致していたため受け入れやすかったのです。また公民館にとっても ESD は公民館の存在意義を現代的な切り口から見直すよい機会と捉えられました。しかし、職員自身にとっても初めての「ESD」を地域で進めて行くためには職員の力を高めることが必須であることから、プロジェクトの事務局である岡山市環境保全課と中央公民館が協力しながら公民館職員向け ESD 研修を継続的に実施してきました。

2. 公民館職員を対象とした ESD 研修の展開

公民館というところはもともと市民が自ら学ぶ場として設置されたもので、子どもからおとなまで地域の多様な人々が利用します。公民館職員は彼らを支援する学びのコーディネーター

の役割を持っているわけですから（岡山市はほぼ全館に社会教育主事を配置）、課題は ESD をどう理解し、どう取り入れていくかでした。公民館では、以前から環境や国際理解など ESD に通じるテーマの講座をいろいろ行っていたので、さらに何をすればよいのか職員はとまどいました。一方で、それまでの講座は、講師の話を書く講義型か、自然体験や料理教室などの参加体験型がほとんどで、「勉強になりました」とか「楽しかった」という感想があっても、学びが個人で完結してしまう、地域の課題解決や社会参画などの実践に結びつかないという課題がありました。また、職員にとっても、司会進行はできてもファシリテーションの経験に乏しいという課題がありました。

3. 研修の内容と特色

そこで、最初の研修は、2005 年度に 2 日間実施した「魅力ある ESD 講座とは……公民館を通して地域に ESD の学びを広げるには」でした。講師には、広島から人間科学研究所の志賀誠治さんをお願いし、以来、内容をその都度相談しながら下記のように研修を行いました。

各年度の研修内容（2005～09 年度）

年度	研修の名称	研修目的
2005 年度	魅力ある ESD 講座とは ……公民館を通して地域に ESD の学びを広げるには ①「ESD を通じてそれぞれの公民館活動を振り返る」 ②「実際の主催講座を企画する」	公民館で ESD をどのように推進していけばよいかを考え、具体的な講座づくりを通して ESD に関する理解と実践能力を高める。
2006 年度	参加型の講座をつくるとはどういうことか	参加型の講座を行うためのプログラムデザインを学ぶ。
2007 年度	ESD ファシリテーター養成講座「参加者をその気にさせる会議運営～ファシリテーションスキルを学ぶ～」	参加者が主体的に関わりながらよりよいものを作り上げていく参加型会議の運営について、ファシリテーションの基礎を学ぶ。
2008 年度	持続可能な社会を築くための人材養成講座「研修会や市民講座を企画開催する人のための評価のしかた・指標づくり」	講座の企画に不可欠の評価の指標づくりを学ぶ。
2009 年度	OJT 研修 ESD エコワールドカフェでの分科会を企画運営する 「テーマで活動する人と地域で活動する人をつなぐ」	環境や国際理解などテーマごとに活動する市民団体と、地域で活動する町内会などの地域組織とをつなぐワークショップを企画・運営することで実践力をつける。

4. 研修の成果と今後の課題

ESD 研修で学んだことは、ESD に限らず公民館職員にとって様々な場で必要な知識や力、スキルであり、職員全体の ESD 力向上が、公民館利用者のエンパワーメント、ひいては地域力向上につながります。最初の研修で講師に言われたことは、「ESD はつながりの再構築」だということです。このことの意味をそれぞれの職員が自分ごととして腹落ちするまでにはたくさんの時間と試行錯誤が必要でした。しかし今ではあちこちの公民館で参加型の講座が組まれています。また、ひとつの講座だけでなくいくつかの講座や事業を総合的に組み合わせたり、他館との連携を行う館もあります。ESD は座学では身につけません。それぞれが自分なりの ESD を実践の中からつかみ取っていくものだと思います。そのためにも段階的、継続的で OJT 的な研修が必要ですが、課題としては、職員が全回出席することは業務の都合で難しく、なかなか ESD 研修の全体像が理解できず、総合的な力がつきにくいことです。

5. おわりに

現在、公民館では、地域の課題解決ができる人を育てるということを ESD の目標にしています。まず地域の特徴を知り、よいところや課題を見つけ、それを解決するにはどうしたらいいか一緒に考え、実践していくというプロセスを市民と一緒にいきます。参加型というのは講座のスタイルに留まるのではなく、公民館の運営、あり方そのものから見直す取り組みであり、持続可能な社会のあり方そのものだと思います。

プロフィール



原 明子 (はら あきこ)

1991 年から (財) 日本ユニセフ協会で学校向けの広報啓発・開発教育に携わる。2005 年から岡山市役所で ESD の推進を担当。ESD コーディネーターとして、ESD の広報、推進事業の企画運営、研修、渉外等を行っている。現在は、2014 年秋に岡山市での「ESD に関するユネスコ世界会議」開催に向けて準備中。



重森 しおり (しげもりしおり)

就実大学で社会教育主事補の資格取得し、2000 年、御津町教育委員会で社会教育主事補として採用。約 3 年間社会教育係社会教育主事として勤務。2005 年に岡山市と合併後、2008 年から岡山市立中央公民館指導係勤務。5 年目。

一言コメント (編集長：森良)

公民館はもともと住民が自ら学習を組織する場であり、職員の仕事はそれをサポートすることであった。岡山市ではそうした公民館(職員)の本来の機能が、ESD に取り組むことによって力強くよみがえりつつあることが読み取れる。

地域においては住民・市民が主役、学校においては子どもが主役というのがこれからの教育・学習の基本的あり方である。そのために必要な力はファシリテーション力、コーディネーション力である。中でも、及川さんの言う「カスタマイズ力」(p6) が重要であろう。

「課題」としてあげられている「全回出席できない」ということに対する解決策は、「こちらから行くこと」である。スーパーバイザーを参加者の現場に派遣し、講座内容を現場に合わせて噛み砕いてフォローしていく体制をつくりたい。



2009 年度公民館職員研修「コーディネーター養成講座」(2009 年 6 月 29 日実施)

20 人の参加者が、コーディネーターの役割を整理し、実習を通して地域における ESD 推進の基礎づくりをしました。

北九州市ESDコーディネーター育成講座「ESD未来創造セミナー」

～市民センター館長・社会教育主事等を中心に～

NPO 法人 北九州サステナビリティ研究所理事長 三隅佳子
北九州市環境局環境学習課 ESD 推進係長 徳永晶子

1. ESD 未来創造セミナー開講のきっかけ

北九州 ESD 協議会は、北九州地域での ESD 活動を推進するため、市民の呼びかけによって平成 18 年に市民団体、企業、学校、行政等 44 団体で設立されました（現在 75 団体）。NPO 法人北九州サステナビリティ研究所もその構成団体で、ESD の支援を活動の一つにしています。

北九州市はこれまで、公害を始めとするさまざまな環境問題を克服してきました。現在も地域や都市の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまちを目指して多様な環境の取組みを進めており、平成 23 年には国から「環境未来都市」に選定されました。

これらの取組みの原動力となるのが、市民の環境力です。「環境未来都市」の基盤となる持続可能な社会づくりのためには、知識の習得にとどまらず、それを活用して自ら考え、判断し、行動するとともに、知識や理解した内容を周囲の人々に伝え、社会を動かすことのできる人材を育成する必要があります。

北九州 ESD 協議会では、設立当初から毎年、会員を対象に、ファシリテーター研修講座を行ってきましたが、十分実践につながったとは言い難い状態でした。そのような中、北九州市は環境未来都市構想が掲げる目標に積極的に取り組むため、市民活動団体の発想や専門性等を活かした提案を市と協働で実施する事業を開始しました。当法人は ESD 活動を担う人材育成研修を市と協働で行うことが、北九州全域に ESD 活動の普及に極めて有効であるとの主旨を提案し、その重要性が認められ、採択・開講の運びとなりました。

2. セミナーのねらい

北九州市には、小学校区毎に設置されている市民センターを始めとして市民活動を支援する施設が多くあり、すでに地域の特徴を活かしながら環境や社会を良くするためのさまざまな学習や実践活動が行われています。一方近年、地域の課題はさまざまな問題が複雑に絡み合っており、少人数で取り組んでも解決が困難なことが多く、地域としても新しい切り口を探求していると言えます。

そのため、環境のみならず、人権、ジェンダー、福祉、貧困削減、多文化共生など多様なテーマに取り組んでいる地域の関係者の分野横断的な協働を生み出す視点とそのための技量をエンパワーし、課題解決のための行動変容と社会変革に向けた思いと力を引き出し、それを形にする視点と力を身に付ける ESD コーディネーターの育成が必要と考えました。

そこで、このセミナーでは、すでに地域の実情に知見があり、リーダーシップやマネジメントの経験を持ち、後に広がりを持つことができる市民センター館長、社会教育主事・主事補、環境学習施設の職員等を対象としました。

3. セミナーカリキュラムの内容と特色

カリキュラムづくりにおいては、効果的かつ有意義なものになるよう、保育所や大学、生涯学習等各世代にわたる教育関係者や行政からなる作成委員会を設置し、幅広い視点かつ専門的な意見をいただきました。さらに、ESD-J に講師について助言をいただき、下表のとおりカリキュラムをまとめました。

ESD 未来創造セミナー カリキュラム

	日程等	内容（講師）
セミナーⅠ 基礎習得	H24.12.1～12.2 (9:00～17:00)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州における ESD の取組紹介（三隅佳子理事長） ○ 基礎的知識の習得、環境教育の要、ESD コーディネーターの役割・スキル、ESD の視点等の習得、ESD の共通認識、課題の明確化（都留文科大学 高田研教授） ○ 岡山市京山公民館の取組紹介（ESD-J 池田満之副代表理事） ○ フィールドワーク（都留文科大学 高田研教授） “ESD の事業” を考えることを通して地元地域の見方と考え方の視点を持ち、地域課題を見つける
参加者の地域における課題を選び、2 日間で習得した手法を用いた企画案作成		
セミナーⅡ 企画力養成	H25.1.26～1.27 (9:00～17:00)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都留文科大学での取組事例紹介（都留文科大学 高田研教授） ○ 各自の考えた（宿題）地域の課題とその解決に向けた ESD プログラムの発表 ○ 京都での取組事例紹介（広島修道大学 西村仁志准教授） ○ 自分の地域の再発見（広島修道大学 西村仁志准教授） ・まちの資源を活かして市民が進めるまちづくり、企画力の習得 ○ ESD コーディネーターの役割を講義の中から見出す（高田研教授、西村仁志准教授） ○ 企画書作成・プレゼン実施
フォローアップ 会合	H25.3.2 (13:30～16:30)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「今日本、世界の ESD !!」 ESD の先進事例の習得（ESD-J 村上千里事務局長） ○ 受講生による企画書発表 ○ 全員参加型パネルディスカッション（都留文科大学 高田研教授）

また、セミナーに参加していただきやすいように、事前学習として市民センター館長全員（7区に129名）に、ESDの説明やこれまでの活動等の紹介を行いました。

セミナーの目標は、ワークショップやフィールドワークを中心に「自ら課題を見つけ出す力」と「地域における課題解決に向けた企画力」を身につけることです。セミナーⅠではESDの基礎知識・事例を学んだ後、班にわかれてフィールドワークを行い、意見を出しながら全員でマップを作成しました。テーマは「人と自然との関わり」と「時代の流れ」。セミナーⅡでは、セミナーⅠ終了後の宿題（参加者自身の地域における課題とその解決プログラムをマップに落とす）を全員が発表。さらに企画書づくりの具体的な方法を学び、各自が企画書作成に挑戦。その成果品の中からフォローアップ会合で発表する企画書を参加者全員がコンペ形式で選びました。

4. セミナーの成果

当初見込んだ定員（30名程度）を上回る45名もの応募があり、本セミナーの受講による社会・地域への貢献に向けた期待度・関心度の高さが伺えました。

講座終了後、参加者からは、ESDは「地域を見直す切り口」、「地域課題解決に向けた糸口」になったという声を多く聞くことができました。さらに、気付き・課題を多面から見ることの大切さや多分野にわたる多くの人が関わり学びあう楽しさを味わい、今後のまちづくり活動において重要な視点としてESDを加えたい（+ESD）という意見も多くありました。

フォローアップ会合においても、一般参加者から次回のセミナーにぜひ参加したいとの声もあったほか、「これからのまちづくり」のテーマにもとづく全員参加型のパネルディスカッションは反響が大きく、地域のために何かしたいという参加者の前向きな気持ちと熱意に心強さを感じました。

5. 今後の課題

ESDコーディネーターは、まさに持続可能な未来を創造する人であり、そのような人々がこのセミナーをきっかけに誕生することを願って、「ESD未来創造セミナー」と命名しました。今回のセミナーを終え、ESD活動の普及を図るためには、今後もこのESDコーディネーター研修を継続し、つなぎ・まとめ役たる人材育成に力を入れていく必要があると実感しています。さらに、今回のセミナーの受講生のフォローを丁寧に行うことが、次なるESD普及の決め手であり、これからの課題です。

セミナーを受講した人びとが核となり、「北九州100万人市民がESD活動を実践！」につながっていくことを目指し、進んでいきたいと考えています。

講師コメント

本研修は環境省「地域におけるESDの取組強化推進業務」ESDコーディネーター育成のあり方検討会（座長、高田）において試案を策定した、育成ガイドラインに沿って今回の研修をデザインしている。既に地域のコーディネーターとして働く社会教育関係者、地域のNPOの方々を対象とすること。そしてそれぞれの仕事内容に沿ったOJT型研修として、現在の仕事にESDの視点を加えることを支援する研修となっている。

北九州市は明治からの製鉄のまちであり、男社会／製鉄城下町である。1950年代の経済成長に伴う大気汚染公害の激しさに対して立ち上がったのは婦人会であった。そこに当時の社会教育指導主事が加わり、母親たちによる「青空がほしい」の運動が始まった。地域では“語る事さえも許されなかった”問題に真摯に向き合ってきた市民による環境運動の歴史の文脈がある。環境の運動は女性たちを目覚めさせ、それは男女共同参画へ大きなうねりを創出した。北九州ESD協議会代表、寺坂カタエ（92才）はその流れにESDを位置づける。

持続可能性という概念は「貧困、人口、健康、食糧の確保、民主主義、人権、平和をも包含する。」社会的公正と不可分な関係にある。そのことを明確に打ち出しているのが北九州における実践である。

まち歩きからはさまざまな地域の課題が見えた。本研修で生まれた成果品としての企画は、持続可能な地域づくりの新たな一歩である。この一歩を確実に踏み出されることに、私どもESDコーディネーター・プロジェクト一同は期待している。



都留文科大学
高田研教授

一言コメント（編集長：森良）

まさにいま地域で一番必要な研修をいい形でやっていただいたというのが第一の感想である。地域で市民と直接向きあい学習や活動をオーガナイズしていく仕事をしている人たちにこそESDの視点と方法を身につけていただきたいからである。わたしは、こうした子どもや市民に向き合っている人々こそがまずエンパワーされる必要があると感じている。今回それはうまくスタートをきることができただろう。

次の課題は、北九州市の行政、企業、大学、NPO等多様な立場から持続可能な地域づくりを考えている人たちによる現場を踏まえた方略的（ストラテジック）な対話である。それをオーガナイズできる全体的なコーディネーターの育成が重要となろう。



セミナーⅠ：フィールドワーク



セミナーⅡ：地域課題の発表作成



フォローアップ会合の
全員参加型パネルディスカッション



IV. 参考資料

ここでは、本プロジェクトのベースとなっている平成 22 年度環境省事業「ESD コーディネーターあり方検討会」の成果をはじめ、過去のコーディネーター研修の資料を収録しました。

環境省「ESD コーディネーター育成のあり方検討会」とりまとめ.....	p34-45
[B-1] モデルプログラム：OJT 型（各自の実践現場での OJT）.....	p46-50
[B-2] モデルプログラム：OJT 型（研修現場での OJT）.....	p51-55
地球環境基金環境保全戦略講座（ESD 分野）： 持続可能な地域づくり・ESD 実践者のためのコーディネート実践トレーニング.....	p56-63
（社）中越防災安全推進機構復興デザインセンター 地域復興支援員研修会： コーディネートゲーム.....	p64-67
JVCA 全国ボランティアコーディネーター研究集会 2012 分科会： 地域の未来の担い手づくりへ、出番と居場所をどうコーディネートするか.....	p68-70
ウェブサイトのご紹介 ～もっと ESD コーディネーター・プロジェクトを知りたい人へ.....	p71

ESD コーディネーター育成のあり方について

平成 23 年 3 月

1. はじめに

<背景>

地球環境問題や貧困、飢餓、エネルギー問題など、世界は多くの課題を抱えています。また、日本国内においても、過疎化や少子高齢化、地域経済の低迷や失業者の増加など、これまでの暮らし方や社会のあり方を見直す必要が生じています。そして、これらの問題を解決し、持続可能な社会をつくっていくためには、行政による制度づくり等のアプローチ、企業等による市場経済的なアプローチだけでは必ずしも効果的ではなく、「新しい公共」の考え方に見られるような、市民の主体的な参加によるアプローチや、NPO・行政・企業等様々な主体の協働によるアプローチの重要性が指摘されています。

このような社会の転換期である現在、我が国が国際社会に提案し、国連の取り組みとして実現している「持続可能な開発のための教育の 10 年（2005-2014）」を通して、社会のさまざまな問題を自分のこととして考え、問題の解決に向けた取り組みに参画する力を持った市民＝「未来の担い手」を育むこと（ESD*：Education for Sustainable Development＝持続可能な開発のための教育）に取り組んでいます。社会に参画する力は、多様な立場の人々が、立場を越えて一緒に課題解決に取り組む経験を重ねることで高められていくものです。環境省では、平成 18 年度から 3 年間、地域における ESD を推進すべく、モデル事業に取り組んできました。そして、地域の中で参加と協働を促し、子どもと大人の学びあい、大人同士の学びあい、行政・市民・企業間の学びあいの場をつくっていくためには、「異なる立場の人びとの出会いの場をつくり、対等な関係性において様々な主体の取組をつなげ、持続可能な社会の実現に向けてコーディネートしていく人材＝コーディネーター」の存在がかぎであり、その育成のあり方が課題として浮かび上がってきました。

このような背景から、平成 21 年度より、「ESD コーディネーター育成のあり方検討会」を設置し、検討してまいりました。この報告書は、平成 21 年度から 2 年間に渡る調査と議論、研修の試行的実施等を通じて明らかになった ESD コーディネーターの育成のあり方について、まとめたものです。

*：ESDとは、「私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」です。具体的には、環境、人権、健康福祉、多文化共生、まちづくりなどをテーマとした、NPO、学校、企業などが行う持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながるすべての活動をいいます。

<検討プロセスの概要>

平成 21 年度は、地域の人材育成の専門家および実践者からなる検討会を設置し、環境省の ESD モデル事業において、地域で実際に ESD 事業をコーディネートされた方々へのインタビュー調査や、市民活動やまちづくり等の分野でのコーディネーター育成事業の文献調査をふまえ、ESD コーディネーターの役割や重要な視点などを整理しました。また、社会教育や市民活動支援などさまざまな分野ですでにコーディネーター役を担っている人材が地域に存在することをふまえ、新たに ESD コーディネーターを育成するのではなく、それら既存のコーディネーターに ESD の視点を「プラス」してもらい研修が効果的である、という方針を打ち出しました。そして、その研修方法として、既存のコーディネーター研修に ESD の視点を組み込んでいただく「組込型」と、さまざまな分野で活躍するコーディネーターを対象として講座と実践の組み合わせで行う「OJT 型」の 2 種類の可能性を提示しました。

平成 22 年は「組込型研修」と「OJT 型研修」を実験的に実施し、その評価をふまえ、ESD コーディネーター研修のモデル・プログラムと企画・実施のポイントを整理し、とりまとめました。また、その議論の中ではコーディネーターの育成という観点からは ESD という言葉を普及することよりも、ESD の視点を多様なコーディネーターと共有し、地域の実践が豊かになっていくことが重要であることが指摘され、固有名詞として「ESD コーディネーター」という呼称を用いるべきかどうかについては、継続して検討していくこととなりました。

*本とりまとめでは、検討途中であることをお断りしつつ、便宜上「ESD コーディネーター」と表現しています。

2. ESD コーディネーターとは

ESD コーディネーターとは、資格を伴う固有の職種の名称ではなく、地域の中で持続可能な社会の実現に向けて、人々の参加と協働を促し、子どもと大人の学びあい、大人同士の学びあい、行政・市民・企業間の学びあいの場をコーディネートする人のことを指しています。

地域にはすでに様々な課題・分野ごとに、異なる活動主体（行政、NPO/NGO、企業等）や活動をつないでいく役割を果たす人が養成され、活躍されています。例えば、中間支援組織の職員や環境学習拠点等・公民館等の職員、社会教育主事、ボランティアコーディネーター、学校地域支援本部のコーディネーターや子ども・子育て支援コーディネーター、都市・農村交流や地域再生・地域活性化に関するコーディネーターなどですが、このような方々に、ESD の視点を共有もしくは意識化していただくことで、地域の中で ESD が推進されていくことを期待しています。

(1) ESD コーディネーターの役割

環境、人権、健康福祉、多文化共生、地域活性化など、地域が直面する課題は、互いに複雑に絡み合っており、その解決には、多様な課題を包括的にとらえ、総合的なアプローチを必要とします。また、そのような社会の問題を解決していくためには、多様な立場にある市民や行政、企業や専門家などを横断的につなぎ、効果的な協働を生み出していくことも大切です。

ESD は地域づくりや社会づくりを担う「人づくり」を目指すものであるため、ESD コーディネーターは、さまざまな活動や教育・学習の場を通して、個別課題に取り組む関係者をテーマを超え

てつなぎ、多様な主体の学びあいを生み出し、市民の社会参画の力を育む場をつくることが役割となります。

(2) ESD コーディネーターに重要な 7つの視点

ESD コーディネーターは、以下の 7つの視点を持っていることが重要です。

- ①地域の持続可能性、世界の持続可能性を視野にいたビジョンを持っている
- ②地域の課題に取り組む一員としての自覚を持っている
- ③市民のエンパワーメントを促進する
- ④多様な主体（教育現場を含む）の参加と協働を促す
- ⑤多様な課題を把握し、分野横断的な活動を促す
- ⑥さまざまな主体が社会的責任を果たせるよう働きかける
- ⑦持続可能な社会にむけたビジョンの実現に向けた道筋を示し、それをプロデュース、マネジメントする

◆実施上の重要な視点について、地域の実践者にお伺いしました

- ・地域の人たちが「どうにかしたい」のは「どんなこと」なのかを引きだし、地域の課題を見極め、それに対して解決できる要素を洗い出してマネジメントをすること
- ・地域の人々の暮らしの様々なフェーズで、地域の持っている魅力や課題、住民が持っている思いや力を聞きだし、そのプロセスのなかで、住民にとって「これをやりたい」がみつかったら、自分が問題解決に取り組むだけでなく、協力者をつないでいくこと
- ・「地域に何が必要か？どうやっていけばいいのか？何が触媒になるか？」などに気づくセンスを持っていること
- ・どの情報がどう役立つのか、別々の情報どうしをどのように掛け合わせると、どういう効果が生み出せるかの、可能性や意味を読み取れること
- ・人と人との間で居つづける「媒介性」、自らがメディアとなって発信しつづける「媒体性」、大事なことを取捨選択できる「編集性」、行政用語やアカデミズム的言葉を地域の人たちにわかりやすく伝える「翻訳性」、言葉にならない地域の人たちの気持ちを汲み取る「意識性」、これらを兼ね備えたスタッフが存続できるための「経済性」等

3. ESD コーディネーター育成の方向性

(1) 方向性

ESD は分野横断的な考え方であることから、すでに活躍されている地域のコーディネーターは ESD のコーディネーターとして活躍が期待される存在です。多様なコーディネーターが地域で活躍している現在の状況では、新たに「ESD コーディネーター」を一から育成することは、多大な時間がかかり効率的ではありません。従って、ESD コーディネーターの育成は、様々な分野ですでに活躍している地域のコーディネーターに、ESD の視点を持ってもらうよう働きかけることが実効的であると考えられます。

ESD を推進するコーディネーターには、地域の中（一学校区程度の地域規模）で活動する現場レベルの ESD コーディネーターと、これらのコーディネーターをサポートし、市区町村、あるいは都道府県などの広域レベルで活動する中間支援的な ESD コーディネーターの 2 種類が想定されます。ESD コーディネーターの育成は、この双方が対象となることが望ましいのですが、まずは中間支援の役割を担う広域レベルのコーディネーターを育成することにより、地域においてより広範に ESD の取組を広げることを目指します。

そして、こうした ESD コーディネーターを先導的に育成したうえで、そのような人たちのネットワークを形成し、ESD 及び ESD コーディネーターの社会的認知度と必要性の認識を高めていくことが重要です。

<期待される既存コーディネーターの例>

- ・ 市民活動に関するコーディネーター（NPOの中間支援組織、環境学習拠点等の職員）
- ・ ボランティア活動に関するコーディネーター（ボランティアセンター等の職員）
- ・ 学校教育に関するコーディネーター
- ・ 社会教育に関するコーディネーター（NPOや公民館等の職員、社会教育主事）
- ・ 地域再生や地域活性化に関するコーディネーター
（自治体やNPO等の職員、大学の地域貢献担当教員等）
- ・ 都市・農村交流に関するコーディネーター（NPO、自治体等の職員）
- ・ 子ども・子育て支援に関するコーディネーター（NPO、児童館等の職員）

(2) 育成方法

ESD コーディネーターは、座学だけでは育成できません。すでに現場での実践を持っている人を対象とし、学びと実践を繰り返しながら、スキルや知識を高めていくことが必要です。本検討会では、ESD コーディネーター育成の形態として、以下の 2 類型を考え、その中に盛り込むべき内容について検討しました。

①実施方法の種類

- A** 組込型 : 既存の様々なコーディネーター研修に、ESD 的な視点を組み込んで実施する
 例) NPO 支援センター研修会への導入
 社会教育主事講習への導入 など
- B** OJT 型 : 様々なコーディネーターの方々に、ESD 的な視点を持ってもらうためのオンザジョブトレーニング (OJT) を組み込んだ研修を実施する
- B-1** 受講者自らの活動現場における課題解決をテーマとした計画づくり、実践、支援、評価等を組み込んだ講座
- B-2** 特定の (持続可能な地域づくりに取り組む) 地域をフィールドとして設定し、現実の課題や資源に基づいた計画づくりや実践を組み込んだ講座

(参考) A・B 二類型の概要比較

	A. 組込型	B. OJT 型
ねらい	日常のコーディネーション業務に、ESD の視点を組み込む、もしくは意識化するための知識やヒントを提供する	ESD の視点を持ってコーディネーションを行うための知識とスキルの両方を身につけ、実践につなげる
広報	主として協力先のネットワークに働きかけるため、広がりが期待できる	
体制	連携できるパートナーが必要	単独でも開催は可能
期間	協力先の設計にもよるが、1 日程度から短期での実施も可能	長期 (6 ヶ月～1 年、2 年程度)
費用	協力先との間で調整する必要があるが、部分的な費用の負担で可能	全体をカバーする費用が必要。受益者負担では負担額が大きくなる

②研修に含める内容

- ・ ESD の考え方についての講義
- ・ 持続可能な社会づくり、地域づくりのビジョンに関する講義と討論
- ・ ESD の考え方を取り入れた教育計画・事業計画づくりの講義と実習
- ・ ESD の考え方を取り入れた教育・事業の評価についての講義と実習
- ・ 持続可能な地域づくりのコーディネーションに必要なスキルの講義と実習
 - ▶ 地域住民や多様な主体の思いを引き出す
 - ▶ 多様な主体の対話を促進する
 - ▶ 課題を整理する
 - ▶ 地域住民の主体的な参画を引き出す
- ・ ESD のケーススタディ (例)
 - ▶ 学校と地域
 - ▶ NPO と地域
 - ▶ 公民館や児童館等の施設と地域 など、多様に考えられる

③留意事項

＜実施に際して＞

- ・「内容」はすべてが必須項目ではなく、対象者や時間枠等の状況に応じて実施されるものとする。
- ・場合により、開催時期、開催時間（長さ）に配慮することが必要である。
- ・交流促進の観点からは、宿泊研修が有効である。
- ・現場で、PDCA を回し、その評価を講座で行うなどの工夫が必要である。

＜フォローアップ体制に関して＞

- ・ESD コーディネーターとなった後もさらにそのスキルを向上させるため、実践現場にスーパーバイザーを派遣することも有効である。
- ・コーディネーター同士のつながりから学びあいのネットワークをつくるのが有効である。

4. 試行プログラム の実施概要と成果および評価

平成 22 年度は、上記 **A** 組込型、**B** OJT 型をそれぞれ試行的に実施し、その結果をもとに検討しました。その実施内容と成果および課題は下記の通りです。

Aモデルプログラム：組込型

(1) 目的・概要

特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）の協力を得て、主として、中堅のボランティアコーディネーターを対象とした半日（3 時間）の研修に ESD の視点を組込む研修を企画・実施した。

(2) 各段階での実施事項と留意点

①企画段階

組込研修の協働実施者である JVCA と 2 回のミーティングを実施。研修を企画する意図やねらい、或いは ESD とボランティアコーディネーションについての共通点や異なる点等を確認、その後 JVCA 側で進行案を作成した。構成は、ボランティアコーディネーションの現場で起こっている相談のケーススタディをベースとし、ボランティアコーディネートの専門家と ESD の専門家ふたりによるアドバイスで学びを深めるものとした。JVCA および ESD 双方の講師による打ち合わせは、時間的な問題もあり当日簡単に行うこととなった。

【確認された共通点等】

目指す社会像（持続可能な社会、市民社会）はほとんど共通している。現在のボランティア活動推進機関の相談窓口において対応に苦慮したニーズへ新しい視点とスキルを提供することを目的としたコーディネートの研修に、個別支援ニーズの解決にとどまらず、ボランティアセンターだけでは解決できないことも含め、周囲の関係者や多様な組織の協力を得た継続的な学習や活動を計画するような点を付加することなどが考えられる。

【留意事項】

- ・組込先の活動領域と ESD の両方を知っている者が企画準備の段階で、研修企画のコーディネーションを果たせるかどうかによって、スムーズな導入が可能かどうかの成否が決定する。
- ・コーディネーターとして大切にしている視点や研修で伝えたいポイントなどの基本的な考え方が一致しているのか等の確認が必要である。とりわけ、ESD と組込先の活動領域との共通項と個別事項など。
- ・組込先の団体事務局側との打合せの時間、当日実施する講師との打合せの時間を充分にとることが重要である。
- ・事前の講師同士の目標設定や進め方の打ち合わせに時間をかけ、最低でも当日までに 1 回は顔合せをして打ち合わせを行うことが理想的である。

②広報段階

主催者の関係先、並びに ESD の関係者にも広く広報を実施した（但し、広報期間が短かった）。

【留意事項】

- ・広報・募集戦略は設計段階で、どんなメンバーに何人来てほしいかという想定がしっかりしていることが重要である。
- ・参加者に対しては、ESD が組み合わさった研修について、その意味や得られる効果等についてわかりやすく説明することが必要である。

③実施段階

講座は、相談のケーススタディ 2 本にグループワークで取り組む構成。テーマは、①エコキャップ回収ボランティアについて、②参加者から出された業務上の課題や悩み等について。参加者は中堅のボランティアコーディネーターを中心に 16 名が参加。テーマ②では、与えられたケースの答えを考えるのではなく、そのケースの背後にある課題について掘り下げる進行とし、グループからの発表後、二人の講師から ESD の視点を含むアドバイスを行った。

【留意事項】

- ・ESD で大切にしている視点を、組込先の活動領域、今回でいえば「ボランティアコーディネーターの視点」と組み合わせる、或いは整理する資料があるとよい。

④評価段階

参加者へのアンケート評価は、研修実施直後と、2 週間程度が経過した後の 2 回にわたって実施した。

回答では、「ESD についてよく理解できた・ある程度理解できた」が半数にとどまったが、ESD の有効度については、ほぼ全員が「今後のボランティアコーディネート業務にとっても役立つ・ある程度役立つ」となった。多面的に物事を見ること、各分野のつながりが大切であること、持続可能性という時間軸を持つことなどが、コーディネーションの質を高めるとの評価を受けた。

(3)組み込み型研修の意義

- ・既に多様な分野においてコーディネーターの養成が行われ、地域で活動されており、ESD
-

の視座をもった取組みも少なくない。従ってそれらの取組みと連携・協働することで、一定の素養のある方にアプローチが可能となる。そして、実践にのっとった形式で研修を行うことで、短時間でも効果が得られやすくなる。

- ・既存のコーディネーター育成プログラムと協働する際に、相互のビジョンや目的意識等についてのすり合わせが欠かせないが、そのプロセスが ESD を広げていく取組みとなる。

(4) 組み込み型研修の課題

【組み込み型依頼段階】

- ・ ESD コーディネーターとして想定している学びや学習の機会づくり、分野横断的な視点、または、地域の課題を包括的に捉えてステークホルダー間をつなぎ、対話を行っていく等の視点は、組み込みを依頼する先の団体においても内包しているケースが多く、共感は得られる一方で、改めて ESD を組み込む際の違いやメリットをわかりやすく説明する必要がある。
- ・ ESD や SR (社会的責任) 等の新しい言葉にはある程度の時代的背景や要請があり、それらの意味合い等を伝えていくことは大事である。ただ ESD という言葉や概念そのものは抽象的で伝わりづらく、また意味も実感してもらいにくいので、組み込み方に工夫が必要となる。例えば、受講者が講座の中で自らの取組みを見直したり、意味づけたりする際の視点の一つとして、ESD を用いること等が効果的であると考えられる。
- ・ 各地で研修を行っている講師が、ESD や ESD 的な視点を理解し、それぞれの分野の文脈に捉えなおす(翻訳)研修や、情報交換の機会づくり、あるいは他のコーディネーター育成プログラムについて情報交換からつながりをつくっていくことが有効と考える。
- ・ 目標である持続可能な社会づくり (SD) のためのプロセスが発展的に展開していけるかという共通理解を両者につくることが大事である。

【プログラムの企画・実施段階】

- ・ 事前の打合せにおいて、主催団体側と組込をする対象の研修の実施意図や狙い、ESD とは何か、ESD 的視点を当該研修に組み込んだ場合の双方のメリット及びプラスアルファとなる価値等を相互に、丹念に確認する必要がある。
- ・ とりわけ、組込先の研修の活動対象となる分野において、ESD の視点が加わることでどのような変化や、学習があるのかが明確になっている必要がある。既に ESD 的な取組みを実施している、方向性が重なることがあるだけでなく、何らかの貢献する要素が具体的であることが求められる。
- ・ 冒頭等に「ESD とは？」というようなプレゼンテーションを短時間で行ってもあまり理解度やその後の活用につながりにくいことが想定される。組込をする対象の研修の主題や目的に沿って、ケースとして取扱う、コーディネーターの役割を確認する際などの視点の一つとして取り入れる等の配慮が必要である。

B-1 モデルプログラム：OJT 型（各自の実践現場での OJT）

（1）目的・概要

（財）公害地域再生センター（あおぞら財団）の協力を得て、社会教育主事職、公民館職員、NPO の中間支援スタッフを主な対象とした、2 日間×2 回の研修を企画・実施した。ESD の視点の共有、地域課題の捉えなおし、実際の事業企画の作成、事業経費の確保（助成事業への応募）へ向けたアドバイスなど、地域における ESD 事業を企画・運営する力量形成を目的とした。

第 1 回（10/16-17）と第 2 回（1/28-29）研修の間に、参加者の各地域において ESD の視点をふまえた事業企画の立案と、その企画を協働で実施してくれるような実施体制をつくることを課題とする OJT を組み込んだ。

（2）各段階での実施事項と留意点

①企画段階

環境まちづくりに取り組む NPO、環境教育の研究者、公民館職員等による企画会議を設置し、募集前に 1 回、第 1 回研修開催前に 1 回、第 2 回研修開催前に 1 回の計 3 回、研修内容や構成等についての検討会議を開催した。

研修の実施時期については、本事業全体のスケジュール調整等の関係で、初回が 10 月、第 2 回目が 1 月の開催となった。

【留意事項】

- ・コーディネーションの OJT 研修には、企画書づくりを念頭に置いた様々なワークがありうるが、時期的に、2 回目が 1 月になるというのは研修成果を次年度の活動に活かすという目的に照らし合わせると遅すぎる。1 回目は夏前、2 回目は 11 月までに開催することが望ましい。

②広報段階

大阪府公民館振興協議会の協力名義を、大阪府教育委員会に後援名義をいただき、公民館職員への働きかけをメインに、近畿地方環境事務所、近畿 EPO の協力により、環境 NPO 等への告知も行った。

【留意事項】

- ・OJT 研修は参加者に長期的な深いかかわりを求められるので、研修の魅力や期待される効果等、参加の動機付けになるような内容を打ち出すことが必要である。

③実施段階

第 1 回： ESD や環境教育、持続可能な地域づくりに関する講義や事例紹介と、現在地域で行われている活動をふりかえる全員参加型パネルディスカッション（金魚鉢方式）、企画づくりの講義などを実施した。（2 日）

地域での OJT：第 2 回研修までの 3 ヶ月の間に、参加者の各地域において ESD の視点をふまえた事業企画の立案と、その企画を協働で実施する実施体制を作る課題に取り組む。

第 2 回： OJT 期間中に作成した企画を評価し合うとともに、地域での協力者づくりのプロセスなどについて議論し、コーディネーターの役割を参加者の言葉で整

理・表現することで、ESD コーディネーターの理解を深める講座を実施した。

(2日)

OJT 期間には、企画者側による電話フォローも行った。

公民館職員 4 地域 7 名、NPO・行政等 3 地域 6 名が参加した。

【留意事項】

- ・ファシリテーターによる参加者への投げかけ、時機に適ったレクチャー、全員参加型の議論などの手法が非常に効果的であった。
- ・事例をもう少し類型化して、整理してわかりやすく提示する必要がある。
- ・異なる立場の参加者を得ることで、学びあいに刺激が生まれ、効果が高まる。
- ・より ESD を意識した企画が出せるようになるには、第 1 回最後の企画の視点を各自でまとめ発表した後、もう少し議論を深めておく必要があったが、時間が不足していた。初回は 2 泊 3 日ができれば望ましい。
- ・メールと電話によるアドバイスだけではなく、進捗のみられない受講者には、個別施設に出かけるなど訪問して話をすることが効果的である一方、体制面や予算面が課題となった。

④評価段階

参加者へのアンケートは 2 種実施し、講座の開催時期や構成等への評価のほか、講座を通じて参加者が何を得たか、というふりかえりを行った。

講座については、ほぼ全員が ESD および ESD コーディネーターの役割への理解が「深まった」と回答、持続可能な社会のビジョンを描く、コーディネートスキルを身につける、といった質問にもおおむね良好、参加者の 7 人中 3 人が今回の研修で企画したことを「実施できる」と回答した。参加者の学びとしては、多様な立場の人と出会い学びあえたこと、立場やテーマの壁を超えたつながりをつくり、取り組みを進めていきたいという意欲が高められたことなどがうかがえる。

(3)OJT 型研修の意義

- ・講義の中身を議論で掘り下げ、また講義で補強する、というプログラム編成は、ESD やコーディネーターの役割を自分の活動の文脈で理解するために効果的な方法である。
- ・第 1 回と第 2 回の研修会の間にインターバルをおき OJT を組み込むことで、参加者の、意識変容を起こす成果につながる。
- ・団塊の世代に意識変容をもたらせる研修は貴重であり、各地でニーズがあると思われる。
- ・1 地域から数名ずつ参加し、チームで地域の課題に取り組める形での実施は、実践につなげる可能性を高める。
- ・OJT 期間中、電話だけでなく、地域に向くなど、より丁寧なサポートや助言ができる体制が組めると、研修効果はさらに高まると考えられる。

(4)OJT 型研修の課題

- ・半年から 1 年、或いは 2 年間等の中長期のかかわりが必要となることから、参加費や研修の実施体制等相応のリソースの確保が必要となる。
- ・社会教育主事などの専門職を対象とした研修実施を可能にするためには、行政が行う職員研

修に組み込むなどの対策が必要である。

- ・OJT型の研修は、全プログラムへの参加が必須であるが、それが可能な参加者は多くないのが現状である。メリットを打ち出す、参加しやすい期間を設定するなど、募集時の工夫が必要となる。

B-2 モデルプログラム：OJT型（研修現場でのOJT）

※本形態については、モデル研修として実施はしていないが、検討員が異なる枠組みで実施されたものを参考としてご紹介いただきました。

（1）目的・概要

NPOやボランティア組織、行政などにおいて中間支援的なコーディネーターの役割を担っている人を対象に、島根県海士町で開催される「ふるさと環境ミーティング」を実践的素材として、地域ESDコーディネーターに求められる役割や機能について学び、向上させることを目的に開催した。海士町外4名、海士町内5名が参加した。

第1回：ワークショップ企画づくり（1泊2日）

第2回：ワークショップ企画ブラッシュアップ（1日）

第3回：ふるさと環境ミーティングワークショップ実施（3泊4日）

第4回：評価会（1泊2日）

（2）OJT 地域活性型研修の意義

- ・地域活性化のための事業にかかわる人たちの動きやニーズとの連携がESDコーディネーター育成として期待される。
- ・コーディネーターやプロデューサーを業としてやろうとしている人達には、地域のリソースを生かした地域づくりの企画力を高めるだけでなく、地域の人々との付き合い方なども学べて非常に有効であった。

（3）OJT 地域活性型研修の課題

- ・外のコーディネーターを受け入れて、一緒に考えたいという意欲を持った地域がないと難しい。また企画のクオリティを保証しきれないリスクも理解したうえで、なおかつ実施したいという地域があれば実施できる可能性はある。
- ・今回のような長期間の研修は現実的には困難である。改善案としては、持続可能な地域を考えている人数名がグループで参加し、企画やコーディネーターに必要な要素、企画書づくり、評価会、現場に持ち帰り実践などを組み込んだOJT型を1泊2日×2回で実施、という企画が考えられる。

5. 今後に向けた検討課題

(組み込み型研修について)

ESD や SR (社会的責任) 等、持続可能な社会を目指す新しい言葉にはある程度の時代的背景や要請があり、さまざまな立場のコーディネーターにその意味を伝えていく意義は大きい。したがって組込型研修の連携先を開拓し、働きかけを行っていくことは、現段階では非常に重要な取り組みである。しかし、ESD コーディネーターとして想定している学習の機会づくり、分野横断的な視点、地域の課題解決に向け多様な主体をつなぎ、対話を促していく等の視点は、組み込みを依頼する先の団体においてもすでに内包しているケースが多く、共感を得られる一方で、改めて ESD を組み込む際の意義がわかりづらい、という課題がある。これに関しては、ESD を組み込むとどのような「違い」がプラスされるのかを探すというのではなく、先方が潜在的に持っていた「ESD と共有している視点」を改めて意識化していただく工夫を一緒に考える、というアプローチが有効である。そして、その ESD 的な視点にスポットを当て意識化を促す、そのような工夫を蓄積することが今の段階では必要である。

そのためのプロセスのひとつとして、現在多様な立場でコーディネーター研修を行っている講師が、ESD や ESD 的な視点を理解し、それぞれの分野の文脈に捉えなおす(翻訳)研究会や、情報交換の機会づくりを行い、講師同士のつながりをつくっていくことが有効であると考えられる。

(OJT 型研修について)

また、ESD の視点を取り入れたコーディネーションが可能となる力量形成を目的とした研修を行う場合は、今回実施したような OJT 型の組み立てが効果的である。しかし、予算や時間の制約があり、なかなか長期にわたる研修は成立しにくい現状がある。ESD コーディネーターを育成していくためには、このような研修を継続実施し、その成果を社会に示し、理解を得ていくプロセスも必要であろう。

(ESD コーディネーターを支援する仕組みについて)

さらに、現場で活躍するコーディネーター同士の交流や相互支援を支えるネットワークの形成や、地域の多様な分野・現場で働くコーディネーターのプラットフォームづくりは、コーディネーター自身が抱えている課題等の共有や解決、お互いのスキルアップや多様なコーディネーターの中に ESD を浸透させていく上でも有効と考えられる。

(ESD コーディネーターという呼称について)

この人材育成の目的が ESD という言葉を普及させるために行っているのではなく、さまざまなコーディネーションに ESD の概念を意識的に入れていくことで、地域の活動を質的に豊かにする、という立場からすれば、解釈の幅を狭めかねない「ESD コーディネーター」という固有名詞を敢えて扱っていく必要はない。一方で、ESD という概念を広げていく上ではネーミングは必要、とりわけ研修を実施する行政の立場からすると、政策的な裏づけが必要という考え方もあり、名称については使用することを妨げるものではない。

ESD コーディネーター育成講座

～地域をつなぐコーディネーター～

2005 年から始まった「国連 ESD（持続可能な開発のための教育）の 10 年」は、今年から後半を迎えています。これまでの 5 年間、環境省では、各地域で実践されている ESD 活動を支援してきました。そして、今年度は ESD をさらに地域に広げていくために、地域の中でコーディネーターとして活躍されている方々を対象に、ESD のあり方について共に考え、ESD のさらなる推進につながることを目的とした講座を開催します。

講座は、2 部構成になっており、第 1 部においては、ESD の考え方や推進する上で重要な視点、地域の課題解決のための企画づくりや関係者や協力者との連携の仕方等を、講義＋ワークショップ形式で進めていきます。第 1 部の講座のあと、参加者には普段活躍されているフィールドにおいて、地域の課題解決・改善のための企画づくりと、その企画の実現に必要な協力者を巻き込む実践を行っていただきます。第 2 部の講座では、各自の企画書を持ちより、課題解決・改善のために、更に内容を向上させるためにはどのような工夫ができるのか、講師の助言を得ながら話し合います。

この講座の特徴は、(1) 地域の課題を解決していくための効果的な手法が学べる、(2) 魅力的で実効性のある企画書づくりが学べる、という点です。

地域における問題を解決する力をつけたい、企画書づくりが苦手、という方は、ぜひ講座にご参加ください。

第 1 回

2010 年 10 月 16 日（土）17 日（日）
10:00～17:00 10:00～16:30

第 2 回

2011 年 1 月 28 日（金）29 日（土）
10:00～17:00 10:00～16:30

構成 2 日間（通い）× 2 回

+1 回と 2 回目の間にフォロー

対象者 ESD 事業等で地域の学びや活動を
コーディネートしている方

※公民館等の社会教育主事・職員、NPO/NGO 中間支援組織スタッフ、ESD 等の活動を実施している NPO/NGO スタッフ

※いずれも地域の学びや活動のコーディネーション経験者 / 実践者対象
※原則的に、2 回、4 日間の研修に参加できる方

参加費 無料 ※交通費、交流会、食費等は各参加者負担

参加者数 20 人程度

場 所 大阪教育大学・天王寺西館 2F 第 6 講義室
(天王寺キャンパス) 地図裏面

主 催 環境省

協 力 大阪府公民館振興協議会

後 援 大阪府教育委員会（申請中）

実 施 ESD-J

(認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議)



講師紹介



高田 研氏

1954年大阪生まれ。関西大学大学院文学研究科地理学専攻。博士課程後期課程単位修得。地域の問題を住民の力で解決するためのワークショップのファシリテーターや、自然学校など「環境教育を職業とする」人たちの人材養成に取り組む。まちづくり系ワークショップ通じて、地域づくりの視点からの環境教育を実践中。都留文科大学教授、あおぞら財団理事。



西村仁志氏

1963年京都生まれ。環境共育事務所カラズ代表、同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授。自治体や企業、NPO等の環境学習・市民参加まちづくりのコーディネートや研修会の企画運営などを行っている。専門領域→野外教育・環境教育・生涯教育・まちづくり・市民参加・ワークショップとファシリテーション。NPO法人環境市民理事、(社)日本環境教育フォーラム理事。

会場地図



〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88

◆JR 寺田町駅下車：徒歩5分

◆JR 天王寺駅、地下鉄天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、徒歩約10分

※駐車場のご用意はありませんのでなるべく公共交通機関をご利用ください。

参加申込書 FAX 番号 03-6277-7554

E-mail (apply@esd-j.org) にも受け付けております

いただきました個人情報は、本イベントの運営のみに使用し、法律に基づき適正に管理します

氏名		年令
ふりがな		
住所：〒		
電話	FAX	
E-mail	所属	
コーディネーターとしてのあなたの経歴		
事業名と内容		

問合せ・申込み先 認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F 担当：村上・鈴木

E-mail : apply@esd-j.org | TEL : 03-3797-7227 | FAX : 03-6277-7554

モデル研修OJT型 ・ 進行表

＜第1回分＞

10月16日				
時間	進行役 (担当)	形式	内容	ねらい
10:00	西村	説明	はじめに オリエンテーション スタッフ紹介 参加者自己紹介（自己紹介シート 作成）	参加者・スタッフとのねらいの共有 化 アイスブレイク
11:00	ESD-J 村上	説明	ESDのこれまで①：説明と経過	ESDのこれまでの歩みについて共通に 理解する
12:00			～昼食～	
13:00	高田	講義	ESDのこれまで②：環境教育の課 題	ESDの現状について共通に理解する 今後を展望するきっかけをつかむ
14:00	西村 高田	全体ディス カッション (金魚鉢方式)	スタッフと参加者数名でのパネル ディスカッション→パネラーは 次々と入れ替わる。 模造紙にキーワードをマッピング 重要キーワードの抽出	参加者各自の立場からのESD実践につ いて相互に理解するとともに、問題 点を共有する。 課題の明確化
16:00	西村	コメントと 事例紹介	同志社大学大学院生の取組紹介	実践事例を通して、ESD的な企画のイ メージを持ってもらう
17:00			終了	

10月17日				
時間	進行役 (担当)		内容	ねらい
10:00	西村	グループ検討	重要キーワード（テーマ）別に小 グループで方策の検討。 課題の共有と具体的取組の検討	ESD推進の新しい取り組みについての アイデアを生み出す。 4つのキーワード： 「支援セクターパワーアップ」 「セクターや部局の壁を超える」 「未来世代を市民として育てる」 「仲間と、協働の関係づくり」
11:30	西村	講義	企画の立て方	「思い」を「カタチ」にするときの 重要なポイントについて伝える
12:00			～昼食～	
13:00	西村	個人・グループ 検討	各人のESDアクションプランづく りと相互相談	各自の現場から発案するESD実践プラ ンを作成する。 また参加者相互にフィードバックの 機会を設け、自らブラッシュアップ していく。
15:45	西村	各自のプランの 発表	キーワードをA4用紙に書きだして 発表	
16:10		ふりかえり	二日間のふりかえり 次回までの課題の確認	今回の学びと次回へのミッションを 確認する。
16:30			終了	

<第2回分>

1月28日				
時間	進行役 (担当)	形式	内容	ねらい
10:00	西村	説明	はじめに オリエンテーション スタッフ参加者紹介	参加者・スタッフとのねらいの共有化 アイスブレイク
10:20	林	講義	「西淀川・つなぐESD」	ESDに関する取組みのなかで、コーディネーターの取組みを実践事例から学ぶ
11:20	西村	企画発表	各参加者が作成した事業プランを発表し、講評する。	
			①大阪狭山市立公民館 「星空からはじまるESD～狭山みんなで団結しようよ～」	
12:00		お昼		
13:05	西村	企画発表	②NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議「枚方市におけるESDを推進する仕組みづくり及び学校版環境マネジメントシステムの普及」	
14:00	西村	講義	「まちの資源を活かして市民が進めるまちづくり」	同志社大学でおこなっているプロジェクトを中心にESDにつながる活動を紹介
15:25	西村 高田	全体ディスカッション (金魚鉢方式)	参加者が企画案を作成する過程でどんな体験をしたのか。企画をつくるときの過程や背景を共有する。	ESDを進めていく上での課題や重要となる事項を共有模造紙に書き出した言葉を見ながらESDにとっての重要キーワードを参加者及びスタッフがそれぞれ選んで、選んだ理由などを各自が説明
17:00			終了	

1月29日				
時間	進行役 (担当)	形式	内容	ねらい
10:00	西村	イントロ	1日目のおさらい、本日の内容について説明。 昨日は出席していなかった参加者から近況報告。	
10:15	高田	講義	地域の協働をどのように進めていくのか	ESD活動の実践的な具体例を知る
11:15	西村	企画発表	③貝塚市立浜手地区公民館 「ごみから貝塚の環境を知ろう」	
13:00		企画発表	④豊中市環境部環境政策室 「とよなかエコ市民賞表彰式」の紹介	
13:25		企画発表 (欠席につき 事務局代読)	⑤八尾市の事例 「今日から始める！健康生活」	
13:40	西村	個人ワーク→全体ディスカッション	ESDコーディネーターの10カ条	ESDのコーディネーターの役割を講義の中から見出す
15:10	高田	講義	学校教育の系譜 ～「系統主義」と「進歩主義」～	
15:40		ふりかえり		
16:40			終了	

ESD コーディネーター育成講座＜第 2 回＞の二日目午後、参加者が取り組んだ「ESD コーディネーターの 10 か条」のセッションからまとめられた結果をご紹介します。

「ESD の八か条」

ESD コーディネーターは、こだわりと妥協

判断・行動する時には、常に公正・公平な視点・立場に立つ。また、合意形成に基づいて作られたコンセプトや信念の軸はしっかり持ち、揺るがないけれど、具体的な方法や実践においては、関わる人々の思いを最大限尊重しあい、お互いやわらかく、しなやかに対応し、よりよいものを作っていく。

ESD コーディネーターは、チャレンジ精神が大事

企画を考えると、計画を実行に移す時、資金を調達する時、人を集める時 etc・・・様々に生じる障害にみんなで挑みましょう。
決められた答えはありまへん。チャレンジ精神を持って固定概念をぶち壊し、新しく自分で物事を創っていく姿勢を持ちましょう。

ESD コーディネーターは、相手の話をよくきくことから

ESD コーディネーターは、相手の話を良く聞くことから・・・・・・・・・・
環境問題は地域に内在する事柄から、国際間に及ぶ場合もある。そこで、一点をみつめるのではなく、多岐な問題から答えを導きだすため、発言者の考えを理解する努力をし、自らが問題点を提起するなどにより、話題の巾を広げることに努める。

ESD コーディネーターは、次世代のコーディネーターを育てる視点を持つ

ありとあらゆるチャンスや機会を使って賛同者を増す。賛同者とは、いつも意思を通じ、理解者に育てる。そのように常に「ステップバイステップ」で育成する事を頭の中に入れておく。
育成プログラムは順次作っていくことが必要である。出来るだけ早く、若い世代へ引き継ぎたい。

『ESD コーディネーターは地域の持続可能性のビジョンを持とう』

ESD コーディネーターは、
明日・1ヵ月後・半年後・1年後・3年後・10年後の・・・色々な長さの、地域のビジョンを常にもって行動することを大切にしましょうね。
(子どもから大人までの参加者、ESD コーディネーター自身、施設・団体含む全てのビジョンのこと)

ESD コーディネーターは、お金がまわる仕組みを考えよう

お金がまわる仕組みについて
ESD 活動は、情熱だけでは長続きしません。活動資金が必要です。自由に使えるちょっとのお金があれば、やれることの可能性はぐっと広がります。行政からの補助はいつまで続くかわからないので、地域の人々に「お金を払ってでも参加したい」「継続して欲しい。」と思われるような ESD 活動にしましょう。持続していくために。

ESD コーディネーターは色々なところにアンテナをはろう

国際的な取り組みである ESD は、常に世界各国の動向と、交渉経過及び合意に基づいて、活動の本質を考え、見極めるように努めること。
国内法を熟知し、関係省庁の法律、改定及び各種通知・通達を知ることが出来るようにすること。
制度は常に改定されているため、知識の充実を図ること。「昔の常識は、今の非常識」

ESD は楽しくやろう

おとなも子どもも持続的な活動をする中で、やっぱり「楽しく」なければ続かない。喜びや感動からお互いが信頼し合える仲間となって進んでいこう！
おとなだから、こどもだからとかではなく、みんなが同じ気持ちを共有し、明るい明日、明るい次世代への取り組みなのだから、「楽しく」やっっていこう！

地域E.S.D.コーディネーター養成研修概要

1. 開催趣旨

持続可能な地域づくりのためには、地域内の資源や人、組織等をつなぐコーディネーターの存在が必要不可欠です。本研修は、NPOやボランティア組織、行政などにおいて中間支援的なコーディネーターの役割を担っている人を対象に、島根県海士町で開催される「ふるさと環境ミーティング～守ろう！活かそう！海士の宝～」を実践的素材として、地域コーディネーターに求められる役割や機能について学び、向上させるために開催します。

2. 目標

- (1) 海士町の環境資源の保全と活用をテーマにしたワークショップを素材として、地域E.S.D.コーディネーターに必要な能力を養成する。(注)
- (2) 地域E.S.D.コーディネーター養成モデルプログラムを実践的に開発する。
- (3) コーディネーター相互の交流を深め、研修終了後のネットワーク構築に寄与する。

(注) 地域E.S.D.コーディネーターに求められる能力

- 愛郷心：地域への愛着や地域をよくしたいと想う意志力
- 企画・提案能力：地域課題を解決するための道筋をデザインし、関係者に対して提案する力
- 調整能力：地域内のさまざまなステークホルダーを対立から対話へと導く能力
- ファシリテーション能力：地域課題解決に向けた会議やワークショップの場等を支援・援助する能力
- 評価能力：活動を評価し、次の課題解決へ向けての課題を整理する能力

3. 主催 環境省中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）

4. 後援 海士町教育委員会

5. 開催月日・場所

回数	開催月日	開催場所
第1回	2010年7月19日（月）～20日（火）＜1泊2日＞	北広島町「ろうきん森の学校」
第2回	2010年9月23日（木）～26日（日）＜3泊4日＞	海士町「隠岐自然村」
第3回	2010年11月8日（月）～9日（火）＜1泊2日＞	境港市

6. 対象者

地域E.S.D.コーディネーター候補者9名（海士町内5名・町外4名）
 （上記以外に、9月の海士町でのワークショップ「ふるさと環境ミーティング～守ろう！活かそう！海士の宝～」の参加者を海士町内外関係者で20～30名程度募集する）

7. 参加費 無 料

8. 講師 川島憲志（フリーランス）、志賀誠治（人間科学研究所所長）

9. 内 容

【第1回：7月19日（月）～20日（火）＜1泊2日＞】		
「ふるさと環境ミーティング～守ろう！活かそう！海士の宝～」事前研修		
①研修の全体像を理解・共有する		
②ふるさと環境ミーティングin海士のワークショッププログラムを作成する		
1 日 目	10:00	●オープニング・オリエンテーション ・地域E.S.D.コーディネーターに求められる役割と機能 ・研修の全体像
	10:45	●セッション1：アイスブレイキング
	12:15	●昼食
	13:15	●セッション2：おはなし「ふるさと環境ミーティングへの思い」 ・海士を知る～海士町の概要（海士町担当者） ・ふるさと環境ミーティングへの思い（海士町担当者） ・質疑応答
	14:15	●休憩
	14:30	●セッション3：全体会「ワークショップテーマを絞り込む」 ・ワークショップテーマの絞り込み ・テーマ別チームづくり
	15:30	●セッション4：おはなし「協働の場をつくり・まわす作法をおさえる」 ・まちづくりワークショップ事例 ・今、なぜワークショップか？ ・ワークショップの場の学びと創造のメカニズム ・ワークショップの場をつくり・まわす役割と基本
	18:00	●夕食・入浴
	20:00	●セッション5：チーム別ミーティング ・ワークショップチームごとにフリートーク
	22:00	●1日目終了・交流会
2 日 目	7:30	●朝食・片付け
	8:30	●セッション6：チーム別ミーティング「ワークショッププログラム作戦会議」 ・おはなし「ワークショッププログラムの作り方」 ・ワークショッププログラム作戦会議 ・ワークショッププログラム構想発表とフィードバック
	11:00	●休憩
	11:10	●セッション7：おはなし「今後の進め方」 ・チーム別プログラム作成手順 ・今後のスケジュール説明
	11:45	●クロージング

【第2回：9月23日（木）～26日（日）＜3泊4日＞】		
ふるさと環境ミーティング～守ろう！活かそう！海士の宝～ 本番 ①ワークショップ・ファシリテーターを体験してみる		
1 日 目	9:00 12:40 14:00 14:30 18:00	<p>●七類港集合（フェリーで菱浦港へ）</p> <p>●菱浦港着・昼食</p> <p>【第1部＝町外参加者のセッション＝】 島外からの参加者のみのセッションです。翌日からの第2部「島内外参加者の合同セッションに向け、知っておきたい海士町の概要をエコツアーのかたちで情報収集します。」</p> <p>●第1部オープニング・オリエンテーション</p> <p>●セッション1：海士町を知る①～町外参加者エコツアー～ ・バスで移動しながら海士町を知るためのツアー（約10箇所程度を視察）</p> <p>●隠岐自然村着・1日目終了</p>
2 日 目	7:30 9:00 11:00 11:30 12:30 13:30 14:00 18:00	<p>●朝食</p> <p>●セッション2：海士町を知る②～海士町関係者のおはなし～ 【第2部＝町内参加者・町外参加者合同セッション】 島内外の参加者による合同セッションです。海士の宝（環境資源）を守り、活かす方法について、4つの切り口でワークショップ形式で考えていきます。」</p> <p>●第2部オープニング・オリエンテーション</p> <p>●セッション3：はじめまして～お互いを知る時間～</p> <p>●昼食</p> <p>●セッション4：分科会紹介</p> <p>●セッション5：分科会（ワークショップ）</p> <p>①人よし、島よし、地球よし～そんな三方よしの教育をつくっだわい！～ ②つながる！たのしむ！まもる！ためのプログラムをつくろう！～自然満喫型から環境保全型へ～ ③人と自然が輝く島へ！～今、役場にできることを考えよう！～ ④海士人の環境×心意気・・・語る→届ける→2,400人へ！</p> <p>●2日目終了</p>
3 日 目	7:30 9:00 12:00 13:00 16:00 17:45 18:30 19:00 21:00	<p>●朝食</p> <p>●セッション6：分科会（ワークショップ）</p> <p>●昼食</p> <p>●セッション7：分科会（ワークショップ）</p> <p>●セッション8：全体会①～分科会（ワークショップ）発表会</p> <p>●セッション9：全体会②～ふるさと環境ミーティングまとめの会～</p> <p>●第2部クロージング</p> <p>●参加者自由交流会</p> <p>●第3日目終了</p>
4 日 目	7:30 9:45 13:00 13:30	<p>●朝食</p> <p>●菱浦港発（フェリーで境港へ）</p> <p>●境港着</p> <p>●境港発（解散）</p>

【第3回：11月8日（月）～9日（火）＜1泊2日＞】		
ふるさと環境ミーティング～守ろう！活かそう！海士の宝～ 事後研修 ①ふるさと環境ミーティングの評価を通して事業評価の視点を学ぶ ②コーディネーターとしての自分をふりかえる ③コーディネーター養成講座の今後に向けての知見を得る		
1 日 目	14:30 ●オープニング・オリエンテーション 14:50 ●セッション1：ふるさと環境ミーティングをふりかえる ・ふりかえりスライドショー ・おはなし「事業評価の視点紹介」 ・参加者評価、第三者評価結果の紹介 16:15 ●セッション2：分科会別事業評価会 ・自己評価シートの記入 ・事業評価 17:15 ●セッション3：全体会「ふるさと環境ミーティングの総括」 18:00 ●1日目終了	
2 日 目	9:00 ●オープニング・オリエンテーション 9:15 ●セッション4：コーディネーターとしての自分自身のふりかえり ・コーディネーターとしてできたこと、できなかったこと（Tチャート作成） ・コーディネーターとして大切にすべきと感じたこと 10:45 ●セッション5：コーディネーター研修の普遍化に向けて ・今回の研修のよかった点、改善すべき点 ・コーディネーター養成講座の研修プログラムについての気づき 11:45 ●セッション6：まとめの会 ・フリップ方式ディスカッションでのまとめ 12:30 ●クロージング	

○分科会紹介

人よし、島よし、地球よし ～そんな三方よしの教育をつくっだわい！～	
分 科 会 1	○コーディネーター 島外：松野陽平（絆創工房） 島内：岩本悠（海士町役場高校魅力化プロジェクト）、叶雅美（株式会社巡の環） ○参加者 島外：岡山市役所、岡山県立矢掛高校 島内：(株)巡の環、陶芸家、地域住民（3） ○記 録：松原裕樹（NPO法人ひろしま自然学校） 島の宝は豊かな「自然」と「人」です。この自然と人の「つながり」の中で、島の文化や産業が生まれ、歴史が紡がれてきました。そして今は、地域と地球のつながりも考えなければいけない時代になりつつあります。身のまわりにある環境の様々な問題に向き合い、実際の解決策を探りながら学ぶ授業。島に残る自然を守り活かす智恵や術を受け継ぎ、地域や地球の未来をつくっていく人を育てる教育。ここは、そんな島の宝を守り活かす環境教育プログラムをつくる分科会です。

分 科 会 2	つながる！たのしむ！まもる！ためのプログラムをつくろう！ ～自然満喫型から環境保全型へ～
	<p>○コーディネーター 島外：菊間彰（よるず体験事務所をかしや） 島内：清水和美（海士町役場財政課）</p> <p>○参加者 島外：NPO法人コミュニティ・サ・インランド・マゼ・メトジ・パ・ソ、環境省松山自然保護官事務所 島内：子どもダッシュ村、隠岐自然村、観光協会、あま環境ネットワーク、地域住民（2）</p> <p>○記 録：徳本英明（佛教大学）</p> <p>海士の魅力は豊かな自然。それを満喫するツアーやプログラムは今までにもありました。この分科会では一歩進めて、自然を満喫するだけでなく、自然を守り、島の人と島外の人が交流できる「環境保全型交流プログラム」を考えてみます。一緒に新しいプログラムを作ってみませんか？</p>
分 科 会 3	人と自然が輝く島へ！～今、役場ができることを考えよう！～
	<p>○コーディネーター 島外：河野宏樹（環境教育事務所Leaf） 島内：前田拓郎（海士町役場健康福祉課）</p> <p>○参加者 島外：周南市役所、北栄町役場 島内：海士町役場（産業創出課2、環境整備課2、総務課、財政課、地産地商課）</p> <p>○記 録：兵馬稚比呂（海士町教育委員会）</p> <p>いわがき、CAS冷凍、隠岐牛・・・これまで海士町役場は海士の自然を活かした産業興しに力を入れてきました。しかし、これからは自然を守るのも大切な仕事になるのではないのでしょうか。「人と自然が輝く島」。7月から海士町役場は新たな経営指針として、私たちの暮らし、産業を支えている自然を大切にできる島を目指しています。この分科会では、そんな島を目指して役場組織として、または役場職員として「今、できること」を探し、提案していきます。</p>
分 科 会 4	海士人の環境×心意気…語る→届ける→2400人へ！
	<p>○コーディネーター 島外：大滝あや（TAO舎） 島内：本田美智子（NPO法人だんだん「さくらの家」）</p> <p>○参加者 島外：コミュニケーション技研、フリーランス 島内：海士中学校、地産地商課、公民館、地域住民3</p> <p>○記 録：相沢翔平（都留文科大学）</p> <p>「海士の海って意外とごみ多いんだ～」 「環境に対する意識は、あまり高くないのかも…」 「でも自然と上手に付き合っているお年寄りもいるよね」 「子どもも結構考えている気がする」 「島のこれからへの想いを、島に暮らす皆が声にするような何かを作れないかな…」 という声から始まったちょっと壮大な!?企画です。この分科会では、海士の環境への思いを町民2400人が声にし、2400人分の声を島じゅうに届ける方法や可能性を探ります。…「誰かの思いを皆に届ける」ために、一緒に汗をかいてみたい方大歓迎！！</p>



持続可能な地域づくり／ESD 実践者のための

コーディネート 実践トレーニング

持続可能な地域社会をつくるためには、環境や福祉、多文化共生、子育て、教育など、地域の人々が抱える様々な課題を、多様な人びとを巻き込みながら解決に取り組んでいくことが大切です。ESDとは、そのような活動を「学びあい」の場を通して活性化していく取り組みのこと。

この研修では、多様な人々の参画する活動や学びあいを生み出していくために必要な能力＝ファシリテーション力とコーディネート力を、多様な地域・多様なテーマに取り組む実践者の皆さんと高め合うことを目指します。

2009年12月12日(土)▶13日(日) 1泊2日
東京スポーツ文化館 (BumB) 研修室

定員：25名 参加費：資料代1000円(別途、宿泊費、食事代が7000円ほどかかります)

参加者募集!

ESDや地域活動をコーディネートする全ての方に!

- ・ESD / 地域の学びあいをコーディネートするNPO、社会教育主事、大学の方
- ・地域活動を支援する中間支援団体、ボランティア・市民活動コーディネーターの方
- ・学校と地域をつなぎ、学びの場をコーディネートする方
- ・地域活性化のコーディネーションに取り組んでいる方

講師



森良

エコ・コミュニケーションセンター代表



大島順子

琉球大学准教授



竹内よし子

えひめグローバルネットワーク代表

主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金

企画/開催協力：NPO法人 持続可能な開発のための教育の10年推進会議 (ESD-J)

お申し込み・お問い合わせは・・・

NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J) E-mail : seminar@esd-j.org TEL : 03-3797-7227



日時：12月12日（土）13：00集合～13日（日）15：30解散 1泊2日
 会場：東京スポーツ文化館 研修室
 宿泊：同 宿泊ルーム
 費用：資料代1000円（別途、宿泊費、食事代が7000円ほどかかります）
 定員：25名（申し込み順受付／定員になり次第、締め切り）※要事前申込

Program

<p>12月12日 ⊕</p> <p>集合 13：00 研修 13：30～19：30 交流会19：30～</p>	<p>トレーニングSTEP1 ～地域の真の課題を引き出し、課題解決につなげるトレーニング～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・相談活動のロールプレイ <傾聴と課題把握> 参加者自身の地域・活動課題を題材にした相談対応のロールプレイを通して、課題の共有、解決に向けた糸口の共有だけでなく、真の課題を引き出す力・課題を解決につなげる力の向上を目指します ・ワールドカフェ方式による学びの共有、発展 ・ショートレクチャー ファシリテーター、コーディネーターの果たす役割、必要な視点、スキルなど
<p>12月13日 ⊖</p> <p>研修 9：00～15：00 解散 15：30</p>	<p>トレーニングSTEP2 ～地域課題を解決する、プロジェクト創造のトレーニング～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のワークショップ <協働プロジェクト企画> 参加者自身から提案のあった課題を基に、グループで解決に向けた協働プロジェクトの企画を通して、企画力の向上を目指します ・マイプランづくり グループワークで学んだことを、参加者一人ひとりの課題解決に応用します ・ショートレクチャー 時代を転換する推進力をどう高めるか ・ふりかえりとまとめ

お申し込み方法

参加希望の方は、下記事項をメール又はFAXにてお申し込みください。

<あて先> Eメール seminar@esd-j.org FAX：03-6277-7554

<件名> [ESD実践研修申し込み] としてください

<記入内容>

- 1) お名前（フリガナ）
- 2) ご所属（会社、団体、学校など）、活動地域
- 3) 住所、メールアドレス、電話番号、FAX番号
- 4) ファシリテーション、コーディネーションの領域、経験
- 5) 講座に期待すること
- 6) 今回の案内をどこでお知りになったか

個人に関する情報は、本講座開催の目的以外には使用いたしません。

会場アクセス

BumB 東京スポーツ文化館
 〒136-0081 東京都江東区夢の島3-2 代表：03-3521-7321



講師プロフィール



森良（もりりょう）

ESD-J理事、エコ・コミュニケーションセンター（ECOM）代表
 子どもたちの自然教室のボランティアを10年、環境教育・生涯学習・まちづくりを応援するNPOを16年実践。これからは、アジアと日本の地域のコーディネーター育成に力を注ぐ。ミッションはコミュニティ・エンパワメント。



大島 順子（おおしまじゅんこ）

ESD-J理事、琉球大学准教授／日本ネイチャーゲーム協会指導者養成委員／国頭ツーリズム協会顧問
 沖縄やんばるの海と山に囲まれ自然の恵みに支えられた生活文化が残る国頭村に住み、村人たちと地域資源の持続的な利活用をもとにした地域づくりにじっくり熱く取り組む。大学では「持続可能な観光」を担当。



竹内 よし子（たけうちよしこ）

ESD-J理事、えひめグローバルネットワーク代表
 渡英経験、企業・研究機関の勤務経験を経て1998年から市民活動を開始。モザンビークの武装解除物資として松山市の放置自転車を送る国際協力活動を軸に、市民のみならず、行政、学校、企業をつなげながら、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

「地球環境基金」は、国内外の民間団体（NGO・NPO）が行う環境保全活動への資金の助成や人材育成、情報提供等の支援を行っています。

独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金本部
 〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー8階
 TEL 044-520-9505 <http://www.erca.go.jp/fjge/index.html>



お申し込み・お問い合わせは・・・

NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）

E-mail：seminar@esd-j.org TEL：03-3797-7227 FAX：03-6277-7554 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F



平成21年度環境保全戦略講座（持続可能な開発のための教育分野）

持続可能な地域づくり／ESD実践者のための

コーディネート実践トレーニング【報告】

①講座の目的・趣旨

持続可能な地域社会をつくるためには、環境や福祉、多文化共生、子育て、教育など、地域の人々が抱える様々な課題を、多様な人びとを巻き込みながら解決に取り組んでいくことが大切です。ESDとは、そのような活動を「学びあい」の場を通して活性化していく取り組みのこと。

この研修では、多様な人々の参画する活動や学びあいを生み出していくために必要な能力＝ファシリテーション力とコーディネーション力を、多様な地域・多様なテーマに取り組む実践者の皆さんと高め合うことを目指し、企画・実施しました。

*ESD：持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）

②プログラムの概要

日 時：平成21年12月11日（土）13:30～ 12日（日）15:40 終了（一泊二日）

会 場：東京スポーツ文化館（BumB）

参加者：関東・中部・近畿から、地域や学校におけるESDの実践者や、社会福祉協議会、市民活動支援センターなどのスタッフ30名

講 師： 森 良さん ESD-J 理事、エコ・コミュニケーションセンター代表
大島順子さん ESD-J 理事、琉球大学准教授／日本ネイチャーゲーム協会指導者養成委員／国頭ツーリズム協会顧問

竹内よし子さん ESD-J 理事、えひめグローバルネットワーク代表
（講座検討委員）

上記3名に加え

嵯峨創平さん NPO 法人環境文化のための対話研究所代表・事務局長

使用教材：ESD テキストブック②実践編『希望への学びあい～なにを、どう、はじめるか』

<http://www.esd-j.org/j/book/book.php?itemid=2725>

開催プログラム：

<1日目>地域の真の課題を引き出し、課題解決につなげるトレーニング

参加者自身の地域・活動課題を題材にした相談対応のロールプレイを通して、課題の共有、解決に向けた糸口の共有だけでなく、真の課題を引き出す力・課題を解決につなげる力の向上を目指します

<2日目>地域課題を解決する、プロジェクト創造のトレーニング

参加者自身から提案のあった課題を基に、グループで解決に向けた協働プロジェクト企画することを通して、企画力の向上を目指します。さらに、グループワークで学んだことを、参加者一人ひとりの課題解決に応用していきます。

③プログラム詳細

<1日目>

地域の真の課題を引き出し、課題解決につなげるトレーニング

時間	内容	備考
13:30 ～14:30	オリエンテーション アイスブレイク 自己紹介 グループづくり	ガイダンス資料 (ESD をとりまく環境を簡単に紹介)
14:30 15:00 30分×2	ロールプレイ<傾聴&課題解決> 本当の課題を引き出す 課題を解決につなげる 進め方説明 5分 モデル実施 10分 参加者からフィードバック 10分 ポイントの説明 5分 ロールプレイ・スタート 相談&引き出す&アドバイス 10分 他のアクターからも引き出す 10分 フィードバック 10分	4人一組 ロールプレイ=1対1 +2は、観察・フィードバック *観察シート <傾聴により確認すること> ・見えている課題 ・見えていない課題 ・さまざまな背景 ・本気度 <フィードバックすること> ・内容 ・コミュニケーションのとり方 ・事業化に向けたアドバイス <大切なポイント> 私の思い→社会の思い→事業の組み立て (公共を担う意識)
16:00 ～16:15	休憩 2日目に検討し、プロジェクト化したい「課題」を参加者から募集	*この指とまれエントリーシート (呼びかけ人、所属、地域、課題、サインアップ欄)
16:15 ～17:15	ロールプレイ<傾聴&課題解決>2	
17:15 ～17:45	グループ内で4ケースをふりかえる	
17:45 ～18:00	休憩	
18:00 ～19:15	ロールプレイのふりかえり (ワールドカフェ方式) ・トレーニングで気付いたこと	ワールドカフェ説明資料 <傾聴のコツ①>

	・ESD のコーディネーションで大切なこと	「私の思い」を聞き出す時 ・COLOR (もっと詳しく) ・STORY (その先は、結論は) ・EMOTION (その時の気持ち) <傾聴のコツ②> ・びっくりする ・質問する ・注釈しない
19:15 ～19:30	ショートレクチャー ・コーディネーターとしての視点 ・ESD との関係	レクチャー資料 (ESD-J テキストブック②) 3章(4)を中心に
19:30 ～21:00	夕食&交流	
22:00	課題解決グループ、朝プロ・サインナップ締め切り	

<2日目>

地域課題を解決する、プロジェクト創造のトレーニング

時間	内容	備考
9:00 ～11:00	協働プロジェクト企画ワークショップ グループの確認 ワークショップのねらい説明 さまざまな事業の可能性を紹介 ・まず2時間の協働企画づくりの進め方をプランニングする ・2時間で地域課題解決プロジェクトをプランニング	企画シートのフォーマットは決めないが、以下をおさえる ・名称 ・目的 (こんな課題が、〇〇年後こうなっている、そのためにこうする) ・5W1H、プロセス ・ESD 的視点、工夫はどこ? *事業構築上の可能性に関するヒント集 (助成金情報、シート)
11:00 ～12:00	発表 コメント、質問、提案をポストイットに書いてはる	発表の方法は自由 10分×6グループ程度 (発表5分、質問意見5分)
12:00 ～12:15	ショートレクチャー ・時代を変換する推進力	レクチャー資料 (ESD-J テキストブック②) 3章(5)を中心に
12:00 ～13:00	昼食	
13:00 ～14:00	マイプランづくり グループプランを参考に、自身の	共通フォーマットはなし 助成金フォームなどを提供

	事業企画をつくる グループ内でのシェア	「企画は地元へもどり、地域の人を巻き込み、実現につなげよう」
14:00 ～15:00	ふりかえり	ふりかえりシート ・コーディネート力、企画力、交渉力、プロジェクトマネジメント力などが向上したか？ ・この講座をこう活かしていきたい、この出会いをこう活かしていきたい アンケート

④実施結果

この研修の特徴は、対象者を多様な分野でコーディネートの現場を持つ人としたことと、参加者が現場で抱えている課題を実習の題材としたことです。環境、福祉、国際協力、まちづくり、中間支援・・・、多様なテーマに取り組む実践者が集まり、その参加者の力にも恵まれて、研修は実りの多い、学びあいの場となりました。

一日目

オリエンテーションで持続不可能な社会の現実と ESD が目指す社会について共有した後、4 人一組のロールプレイで、コーディネーションの第一歩である課題把握フェーズの傾聴トレーニングを実施しました。ロールプレイでは、以下の 3 種類の役割を順番に担います。

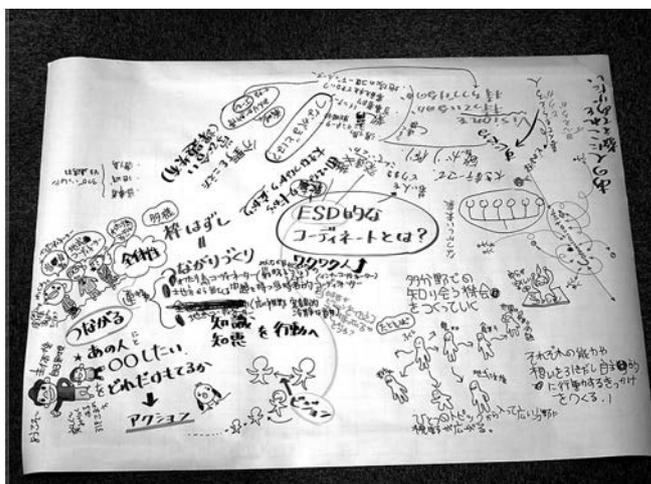
- A) 相談者：が地域で抱えている課題を相談
- B) コーディネーター：相談者の悩みを整理しながら聞き出す
- C) 観察者：AさんとBさんのやりとりを観察し、終了後、Bさんにアドバイスする

このトレーニングのメインは、相談者の背景にある真の課題を引き出すことですが、さらに後半はその悩みに対し、有効と思われるアドバイスをグループ内のメンバーが行い、Aさんは自分が相談した課題解決への糸口を得ることができるような構成にしました。



「人間 KJ 法」でロールプレイのためのグループ分け

その後全員でロールプレイのふりかえりを行い、話を聞くときに有効だったノウハウをみんなで共有しました。そしてワールドカフェ方式で「ESD 的コーディネートとは？」について議論。ショートレクチャーでは、ワールドカフェで出てきた視点もふまえ、コーディネーターに求められる役割、必要な視点などを整理してお話しました。



「ワールドカフェ」で
“ESD 的コーディネート”を議論

二日目

参加者が提案した課題を題材に、ESD の視点を活かした課題解決プロジェクトの企画づくりに取り組みました。

◆協働プロジェクト企画ワークショップ：6つのテーマ

- ①地球のために！増田農村体験プロジェクト（都市と農村をつなぐ）
- ②天竜美林間伐リレープロジェクトの養成ギブス（人工林の整備）
- ③Tate Tate Project（再開発で対立する住民を巻き込んだまちづくり）
- ④大好き四ツ木！ずっと住みたいまちづくり（商店街の活性化）
- ⑤里地・里山地域再生プロジェクト～草原を活かしたエコビレッジ～
- ⑥バリアフリー劇団「ダイコン一座」明日はどっちだ！



都市農村交流の企画グループ

6つの企画案はこちら

<http://www.esd-j.org/j/activity/activity.php?itemid=2899&catid=333>

発表後のショートレクチャーでは「学びから未来へのビジョンを生み出し、社会を転換していくところこそが ESD。皆さんもここでの出会いやアイデアを地域に持ち帰って行動につなげて」と檄が飛び、午後はひとりになってマイプランづくりに取り組みました。

最後のふりかえりは予定時間を大幅にオーバー。コーディネーションについて学んだことをあらためて言葉にし、腑に落とす大切な時間となりました。参加したメンバーが何を学び取ったのか、その一部をご紹介します。

◆ふりかえりより～参加者が学んだこと

1. 聴く・質問する力

- ・深くうなずく、耳と心が大切
- ・客観的事実を相談者が語れるように問うことが必要
- ・本質的にはどんな思いを持っているのか、をまず知ることがある
- ・図式化しながらメモをとる

2. 多様なニーズに対応する力について

- ・多様なメンバーで対応することができればよい
- ・環境の中身については素人だが、内在する問題は、人と人の関係や、広報力など、別の切り口から見えてくることもある
- ・変化があった時に、どれだけわくわく感をもって受け入れられるか？自分の経験外に出会った時に、わくわく感を持って聴くことが必要

3. コーディネーションする力

- ・かかわるすべての人にとって自分ごとになるように働きかける
- ・極力抱え込まない。自分が解決する人ではない。余計なことはしない。主役は相談者
- ・相手を信じて任せる（自分でまとめない）

4. プロジェクトを企画する力

- ・5W2H を抽出して問題点を解決していく
- ・企画する人に、多種多様な人を参加させる
- ・「内在する課題」根っこにある課題にどうしていったらよいかを考えることが大切

5. ESD 的コーディネートの視点

- ・いろんな問題をそれぞれではなく、関連付けて解決につなげる（ホリスティック）
- ・あかるい未来に向けてのつながり
- ・誰かが言っていることを受け入れるのではなく、自分たちが主体的に「こうありたい」「こうしたい」を考え、解決することにつなげる
- ・ESD のセンスを持つ人を増やしていく

研修終了後は、参加者の発意でメーリングリストもスタート。ESD を意識するコーディネーターのつながりが、今後、どんどん広げていければと考えています。

コーディネートゲーム

このゲームは、何らかの課題が顕在化している集落に対して、コーディネーターがいかに、短期的・長期的な課題を把握して、活動のストーリーを組み立てるのか考えるトレーニングゲームです。トレーニングゲームなので、集落の情報は非常に少なくなっています。そこで「よくわからない」ではなくて、想像力を膨らまして、柔軟な発想をすることがむしろ大事です。

ゲームの進め方

① 地域の課題を明確にする (15分)

「集落カード」と「課題カード」を引き、この地域の状況を決めます！また、書かれていることだけでなく想像を膨らませて他にもどんな課題がありそうなのか、考えましょう！



ポイントは、今ある集落の情報からどれだけ集落の状況をイメージできるかです。

② 地域づくりのストーリーを組み立てる (30分)



ポイントは、集落の中で顕在化している課題に何らかの対処をしていくことによって小さな成功体験をいかに創るかです。

③ 外部人材の活用を組み入れる



ポイントは、外部者をつなぐことによって、どんな展開をイメージできるかです。

④ 活動にコンセプトをつける (10分)

地域づくりのストーリーがある程度組み立てられたら、その活動にコンセプト(タイトル)をつけてください！

⑤ 長期的な視野に立って克服すべき課題を挙げる (20分)

ここまでで、ある程度短期的(1年くらい?)な活動の展開をつくることができました。最後に、短期的な成功体験だけでなく、その裏に隠れている長期的な課題を考えて活動を通じた長期的課題の解決を考えてみてください！

カード一覧

集落カード	課題カード	内部人材カード
200 世帯以上	耕作放棄地の取り扱いが課題	日曜大工が得意
100～200 世帯	盆踊りが途絶えている	創作料理が得意
50～100 世帯	道普請ができなくなっている	人脈が豊富
20～50 世帯	高齢者の見守りが必要	地域の歴史をよく知っている
10～20 世帯	地域のお店が撤退	農作物に詳しい
10 世帯以下	空き家が多い	イベント企画が得意
20% 未満	冬季の高齢者の生活支援	郷土料理が得意
20% 以上～40% 未満	景観の維持	手芸が得意
40% 以上	農業所得の向上	学生を呼んでくれる (人脈がある)
役場から車で 15 分	廃校の活用	もてなしが好き
役場から車で 30 分	都市交流のメニュー整備	I ターン者で、村の活動に積極的
役場から車で 1 時間	高齢者の生きがい	養鯉業者で全国にお客さんがいる
	集落行事が行えない	生産組合で農地管理をしている
	農産物の直販体制の整備	野菜の直売グループで販売力がある
	農業の担い手がない	小中学生
	公共交通 (バスなど) がない	仕事を退職したばかりでビジネス経験が豊富
	町場の工場閉鎖で失業者がいる	役場 OB で行政対応が得意
		フットワークがとにかく軽いオヤジ
		農業青年で外部とのネットワークがある
		商店主で地域の情報をたくさん持っている
資源カード	外部人材カード	
地域の資源		
景観がきれい	アーティスト	新しいアイデアを持っている
お米が特においしい	地元男子学生	体力に自信あり!
山菜がたくさん採れる	地元女子学生	文化的活動好き
滝がある	遠方の男子学生	一緒に盛り上がる!
歴史的遺構がある	遠方の女子学生	賑やか!
自然公園がある	スローライフ・シニア	リピーターとなって寄り添う
キャンプ場がある	転出者	地域に愛着のある外部者
街道が通っている	大学の先生	人脈やアドバイス
ブナ林がある	商社	外部へのビジネスチャンスを持ってくる
言い伝え (伝説) がある	コンサルタント	地域の思いを計画に
大地の芸術祭の作品がある	外部の NPO	とにかく積極的に関わってくれる
棚田がたくさんある	近隣 (長岡など) の NPO	NPO のテーマに沿って関わってくれる
地場産品 (和紙など) がある	行政	“行政的に” 関わってくれる
お祭りがある	都会で働く子ども	都市部から地域の活動を支援
直売所がある	企業	社会貢献活動で参加できる
民宿がある	JA	農業指導をしてくれる
使われていない遊歩道がある	道の駅 (広域の直売所)	農産物を扱ってくれる
学校がある	社会福祉団体	高齢者の生活課題などの相談にのってくれる
近くに集客施設 (温泉など) がある	地元の建設業者	重機をもっている
民宿がある	マスコミ	地域の活動を発信してくれる

コーディネートゲーム実践事例

① 地域の課題を明確にする (15分)

集落カード

世帯数 20～ 50世帯	役場から 車で 1時間	高齢化率 20% 未満
--------------------	-------------------	-------------------

若い人が宅地がなく移り住んできたが、若くて集落行事に興味がない。前から住んでいた人は高齢化している。

課題カード

農産物の 直売体制 の整備	集落 行事が 行えてない
---------------------	--------------------

- 数は少ないかもしれないが高齢化対策が必要
→生活面からも集客面からも交通の不便さがネックになる。
- 農産物販売の経験不足がある。
- 若い人は農業経験不足。
- 若い人と高齢者のカベがある。

② 地域づくりのストーリーを組み立てる (30分)

内部人材カード

仕事を退職 したばかりで ビジネス経験 豊富	イベント 企画が 得意	創作 料理が 得意
---------------------------------	-------------------	-----------------

資源カード

大地の 芸術祭の 作品	山菜が たくさん 採れる	景観が きれい
-------------------	--------------------	------------

- 若い人たちがまずがんばる
- 女性たちががんばる
→直売所で加工品・レストラン
- 若い人たちの料理教室
→先生はばあちゃんがやる。
- 高齢者と若い人が一緒に何かする
(例えば行事)

まず色々なアイデアを出してみた！

まず「小さな成功体験を作る」という方向でアイデアをまとめた

小さな成功体験をつくる

- ①直売所を作る → 山菜を活かした加工品
- ②秋祭り・収穫祭 → 採れた野菜で料理を出してみる。
(若い人と一緒に作る)

③ 外部人材の活用を組み入れる

外部人材カード

マスコミ

マスコミにとりあげてもらい盛り上げる！

他地域から人が遊びに来てくれた！
直売所などで、少しお金がかせげた！

④ 活動にコンセプトをつける (10分)

食+人+芸術=リピーター
→もう一度行ってみたい村 NO.1

⑤ 長期的な視野に立って克服すべき課題を挙げる (20分)

- 集落行事がおそろにならないか！？
- イベントのマンネリ化がおきないか！？
- 新しい住民をどうやって巻き込むのか！？



コーディネートゲーム活用の研修会プログラム表

タイムテーブル		
時間	プログラム	内容
13:00 ~ 13:10	挨拶・本日の流れ説明	
13:10 ~ 13:20	コーディネートゲームの説明	ゲームのルールについての説明をする。 グループ分けをする。
13:20 ~ 15:45	①地域の課題を明確にする。(30分) ②地域づくりのストーリーを組み立てる。(60分) ③外部人材の活用を組み入れる。(10分) ④活動にコンセプトをつける。(15分) ⑤長期的な視野に立って克服すべき課題を挙げる。(30分)	
15:45 ~ 16:00	休憩	
16:00 ~ 16:30	グループ発表	それぞれのグループで出てきたストーリーを発表し、互いに批評する。



参加した支援員の感想～ふりかえりシートより

- ・現実には1つ1つ実現するのは難しいことではあるが、ストーリーを構築して、実行するのは必要な事であるので、イメージトレーニングとしてはよかったと思います。
- ・コーディネータートレーニングはゲーム感覚の中に自由な発想、アイデアを喚起させ、最終的には地域活動のコーディネートの手順・ノウハウが自然と体得できる。このトレーニングを制作されたアイデアに大いに感心した。
- ・今後、同条件で各班がどのような考えが出るかをやってみてもよいと思う。
- ・現実面にとらわれすぎてしまい、飛躍したイメージを描ききれなかった。

分科会 B4

地域の未来の担い手づくりへ、

出番と居場所をどうコーディネートするか

～分野横断・協働型コーディネーションのツボ～

地域の未来の担い手を育てるためには、これまであまり地域とのかかわりのなかった人々にどう地域にかかわってもらえるかが大切。この分科会では、そうした人々に出番と居場所をどうコーディネートするかに焦点を絞り、地域の担い手を育てる「ESD（持続可能な開発のための教育）」的な視点を学びます。地域の防災、福祉、環境など分野を超えた事例を解剖し、参加者の持つ地域の課題と照らし合わせながら、コーディネーションのツボを整理します。

コーディネーター

森 良（エコ・コミュニケーションセンター<ECOM>代表・持続可能な教育のための10年推進会議<ESD-J>理事）

事例報告者

廣瀬 カズ子（ボランティア市民活動学習推進センターいたばし 理事長）
伊藤 勲さん（特定非営利活動法人 やまぼうし 理事長）

スケジュール

09:00	趣旨説明
09:10	事例紹介① 板橋における中学生防災教育（廣瀬）
09:30	事例紹介② 日野における障害者の「共に生きるまちづくり」支援（伊藤）
09:50	事例紹介のディスカッション（廣瀬、伊藤、森）
10:20	グループ討論「分野を超えたコーディネートの課題を整理する」 ・参加者各自の「分野を超えたコーディネートのテーマを挙げ、似ている人、近い人でグループをつくる（4～5グループ） ・グループで各自のやりたいことを紹介、意見交換しつつ「分野を超えたコーディネートの課題を整理する。」
12:00	・グループ討論の結果発表 → 「分野を超えたコーディネートの課題をまとめる
12:20	ふりかえりとまとめ ・振り返り ・まとめ、+ESDの紹介

参加者数と所属内訳

参加者 34人

担当者

鹿住 貴之（JUON〈樹恩〉NETWORK）
須藤 美智子（環境パートナーシップ会議）
矢島 万理（NPO birth）

ねらい・重点目標

地域の未来の担い手を育てるためには、これまであまり地域とのかかわりのなかった人々にどう地域にかかわってもらえるかが大切。この分科会では、そうした人々に出番と居場所をどうコーディネートするかに焦点を絞り、事例を解剖し、グループで話し合いをして分野を超えたコーディネートの課題を整理する。

分科会内容

事例紹介① 板橋における中学生防災教育 廣瀬 カズ子さん（ボランティア市民活動学習推進センターいたばし 理事長）

入居が始まって40年の高島平では、現在40%が高齢者となっている。自治会の役員も高齢化しており、災害となったときに、助けに行ける状況ではない。平成13年から総合的な学習の時間のコーディネーターとして活動してきた廣瀬さんは、防災が進まない高島平の現状に対して、地域構成員としての中学生に着目した。障害者は災害弱者であるという個人の課題、町会は高齢者が多く助けに行くことが出来ないという地域の課題、災害時支援者をどう育てていくかという社会的な課題を同時に解決することを目指したのだ。

受験が終わって卒業までの時期を利用して、中学生が中心となり、町会員、民生委員、高齢者、車いすを利用する方や目の不自由な方、知的障害の方、板橋区防災危機課、消防署、警察署など皆で防災訓練を行う企画である。中学生が、守られる側から守る側になる発想の転換によって、中学生が地域防災の担い手として成長しつつある。この試みを実施し、

継続するうえで、どう地域に声をかけ、つないでいったかをお話しいただいた。

事例紹介② 日野における障害者の「共に生きるまちづくり」支援 伊藤 勲さん (やまぼうし 理事長)

長年、障害者の自立支援に携わってきた伊藤さんは、日野市で、新たな協働型作業所を設立した。障害者が働く場所として、従来の作業所だけでなく、レストラン、サロン、里山保全、酪農など仕事の間を広げてきたのだ。障害者自身も保護されるだけでなく、できることで社会に貢献し、地域の課題解決の一員となるという発想である。現在では、13 事業所を開設し、障害者だけではなく、シングルマザー、シニア、学生など限られた条件の中でそれぞれの働き方を選択し、自立につながっている。シャッター商店街、遊休農地など、地域で困っていることを見つけ出し、課題を可能性に変えて事業化している。私はこんな仕事がしたい、こんなことで困っているという地域の一人一人の声を集め、限られた予算の中でひとつひとつ事業化することで、NPO 自身の自立にもつながっている。リタイアしたプロのシェフや農家など、専門家が障害者の自立という目的に共感し、共に働くことで、事業の成功と、生きがいや居場所づくりという相乗効果を生んでいる。障害のあるなし、異世代、異業種を包摂する多様な暮らしと働く場は、市民の出会いと再生の場として地域を豊かにしている。

ワークショップ

参加者各自の「分野を超えたコーディネート」のテーマを挙げ、似ている人、近い人でグループをつくり、各自のやりたいことを紹介、意見交換しつつ「分野を超えたコーディネートの課題と解決法について整理した。

課題と解決のポイント

- 「人が集う場」、「共働」のプロデュース
- ・社協が全てやることはない。いろいろな異業種ネットワークを組む。
- ・地域の人たちと協力して、地域活動に参加したことのない人の参加しやすい場をつくる。課題を整

理して得意な人に振っていく。

- ・楽しいと思わせる周知の仕方、ツールの利用、目的、使命感を明確にさせる
- ・すでにある場を変えていく。形骸化している場を見直し、魅力ある場に変える。
- ・具体的に動く。裏付けのある実行プランをたてる。補助金を出す方もどこに出すか探している。
- ボランティアが主体性もち、継続するためのコーディネート
- ・場やきっかけをつくることで、問題意識をもってもら。すぐ花開くかはわからないが、次につなげていけるのではないかと。振り返り、企画もいっしょに。
- ・「課題がある、こうしたい、ぜひお願いしたい」の流れだとひいてしまう。課題ありきではなく、得意なことを発揮することで生活が豊かになるという声掛けが必要である。
- 「見つける・育てる・生かす・引き出す」
- ・共通の想いを持つ人、地域の人が集まれる場、活躍できる場を設定していく。
- ・地域をのぞく、フットワーク軽く。光る人材の発掘者に。
- ・魅力あるプログラムづくり、地域の潜在的な魅力を引き出す。
- 「分野の異なる人たちのネットワークづくり」
- ・顔見知りになるチャンスはあっても、事業化までいかない。自分達から悩んでいることを発信して呼びかけていく。
- ・職員が夢を持つ。既存の領域から試して成功体験を積む。コーディネーターの視点を持つ人を増やす。
- ・突破力。強引にやりきってしまう。勝負時の集中力。結果が出ると見直される。
- 知るチカラ 情報の共有、発信、継続するチカラ
- ・地域の歴史や文化を知ること、地域の人たちから聞いて、伝えていく。地域の人が集まる場に顔を出す、お祭りのブースで出展するなど、コラボレーションの可能性が生まれる。
- ・地域診断・コミュニティカルテをつくる。中学校区ぐらいの単位で地域を考える。あるものを活用する。
- 枠を超える
- ・コーディネーターが新たな所に入る楽しさの経験



がない。仕事に追われて、仕事以外の時間が取れていない。新しい人と出会う機会不足である。地域の行事に参加したり、趣味、特技の時間をもち、タブーをもたないこと。

- ・ 枠を超える、ブレイクスルーにはエネルギーが必要だ。今まで向き合っていない、あえて違う分野のひとたちと話す。
- ・ 早めの事業提案が必要。予算に間に合うように。
- ・ ネットワークは自分でつくるだけでなく、ネットワークを持っている人同士をつなぐこと。
- ・ 予算主義の枠を超える。増えることを期待せず、予算以上に活用し、市民力を導入する。
- 「分野を超えた楽しいコーディネーション」
- ・ マルチステークホルダー、周りの関係者とヒト、モノ、カネの3つがうまくまわっていけばいい。地域に出て行って出会い、自分達と他の組織との強みをいかす。
- ・ 違う分野やセクターへの声掛けのこつは、実利をもたせること。
- ・ 目の前のことに精いっぱいだとまわりのことが見えない。
- ・ 自分の弱みをみせて具体的なサポートをお願いする。
- ・ 少し先の目標値を設定する。単独ではできないから連携する。インフォーマルなキーパーソンとの信頼関係が大切。

参加者の声・反応

枠を超えたつながり、コーディネートが学べた。グループ討議でたくさんの気づきを得た。深い内容でした。広げた活動ができるよう気持ちを変えます。共通課題を持った方とのディスカッションが大変良かった。新たな切り口に、嘆くばかりで把握弱みも表していけるようになりたい。社協やボラセンのコーディネーターとして型にはまった枠からはみ出さない日々の業務の在り方に疑問を抱いていたが、NPOとの協働や地域とのつながりの大切さを学びとることができ、とても参考になった。

担当者のコメント

市民活動も行政の縦割りに分かれているが、まちづくり、地域づくりでは分けられない。「分野を超える」と大上段に構えず、誰と誰がどんなタイミングでつながればより効果的な事業となるかを見極める力を養うことではないだろうか。

コーディネーターに必要なことは、地域の資源を知るために日頃から色々なところに顔を出して情報を集め、ネットワークを作ること。人や情報が集まる場を作ること。地域の課題を引出し、課題の整理をすること。何でも自分でやろうとせず、得意なところといかにつながるかがコーディネーション力である。つながるべき専門家はだれなのか。それは地域の高齢者かもしれない、これまであまり地域に出てこなかった中学生かもしれない、障害者かもしれない。本分科会を通して、一人一人が課題を自分事とし、解決の担い手となるような「主体性の種をまく」ことが、コーディネーターの力量だという気づきが生まれた。(須藤)

ウェブサイトのご紹介

～もっと ESD コーディネーター・プロジェクトを知りたい人へ

ESD-Jでは、本プロジェクトの進捗や、各地で取り組まれているコーディネーター育成に関する情報を、ウェブサイトでお届けしていきます。各地で活躍するコーディネーターの皆さま、未来へつなぐコーディネーション力を高める研修や書籍などの情報がありましたら、事務局までお寄せください。このサイトで情報を共有していきましょう。

未来をつなぐ Education for Sustainable Development Coordinator Project

ホーム プロジェクト概要 活動報告 コーディネーター育成講座 映像教材 お知らせ お問合せ

お知らせ

ESDコーディネータープロジェクト第2フェーズの活動が始まっています！ (2013/04/19)

ビジョンワーキンググループの第3回ミーティングが開催されました。 (2012/11/21)

関東コーディネーター学びあいワーキンググループの第2回ミーティングが開催されました。 (2012/10/21)

ESDコーディネータープロジェクト第1回ビジョン会議開催！ (2012/10/15)

ESDコーディネータープロジェクト企画会議開催！ (2012/09/21)

ESDコーディネータープロジェクトキックオフ！ (2012/06/15)

プロジェクト概要

このプロジェクトでは、持続可能な社会のために、全国各地で未来をつなぐ人が活躍している状態をつくりだすためのネットワークや仕組みづくりに取り組んでいます。

活動報告

岡山 ESDコーディネーター育成セミナー 報告 (2013/04/11)

北九州市ESDコーディネーター育成講座「ESD未来創造セミナー」 (2013/03/20)

岡山市における公民館職員向けESDコーディネーター研修 (2013/01/17)

千葉県コミュニティプランニングコーディネーター育成講座 (2012/11/15)

コーディネーター育成講座

映像教材

本プロジェクトは、『地球環境基金』と『Panasonic NPOサポートファンド』の助成を受けて運営しております。

特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育の10年推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日暮研ビル201
TEL: 03-5834-2061
FAX: 03-5834-2062
E-mail: admin@esd-j.org

©2013 ESD-J All Rights Reserved. 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議 (ESD-J)

<http://www.esd-j.org/esd-co>

ESD コーディネーター・プロジェクト 2012 報告書

発行 2013年3月

認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議 (ESD-J)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201

TEL : 03-5834-2061 FAX : 03-5834-2062

E-mail : admin@esd-j.org URL : <http://www.esd-j.org>

この報告書は、平成 24 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成により作成いたしました

